

特集 2017年ランドスケープコンサルタンツ協会賞(CLA賞)



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

会 長：枝吉茂種  
副会長：島田正文・石川 純・宇戸睦雄  
専務理事：内藤英四郎  
事務局長：狩谷達之

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8F  
TEL：03-3662-8266 FAX：03-3662-8268  
HP：http://www.cla.or.jp e-mail：info@cla.or.jp

支部事務局

北海道支部 支部長：及川 渉 事務局長：松野智絵美	〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目 山京ビル408 北海道造園設計(株)内 TEL：011-758-2261 FAX：011-709-5341
東北支部 支部長：板垣清美	〒010-0973 秋田市八橋本町4-10-26 (株)緑設計内 TEL：018-862-4263 FAX：018-862-4273
関東支部 支部長：新井 豊	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル TEL：03-3662-8266 FAX：03-3662-8268
中部支部 支部長：尾関利勝	〒460-0003 名古屋市中区錦1-19-24名古屋第一ビル6F (株)地域計画建築研究所 名古屋事務所内 TEL：052-202-1411 FAX：052-220-3760
関西支部 支部長：津田主税 事務局長：中西広樹	〒530-0022 大阪市北区浪花町12-24 (株)ヘッズ内 TEL：06-6373-9369 FAX：06-6373-9370
九州支部 支部長：大杉哲哉 事務局長：佐藤宣之	〒810-0802 福岡市博多区中州中島町2-3 フジランドビル6F サンコーコンサルタント(株) 九州支社内 TEL：092-271-2900 FAX：092-262-1146

## 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、  
人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、  
環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、  
安全で豊かな環境の創出、  
すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

### 1

#### ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を  
継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

### 2

#### 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、  
技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、  
技術競争の時代に対応します。

### 3

#### 社会的信頼を獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、  
内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

### 4

#### 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、  
多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

### 5

#### 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として  
広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月  
「新しい環境文化の創造 ―造園コンサルタントビジョン―」より



## 特集：2017年 ランドスケープコンサルタンツ 協会賞 [CLA賞]

### 最優秀賞

【設計部門】

グランモール公園再整備 ..... 2

### 優秀賞

【設計部門】

水郷佐原あやめパークのリノベーション―風景再生を目指して― ..... 4

【設計部門】

肥後細川庭園 ..... 6

【設計部門】

七本木池公園 ..... 8

【調査・計画部門】

古都・明日香における地域振興を目指した広域サインの計画 ..... 10

【マネジメント部門】

かなたけの里公園のパークマネジメント ..... 12

### 特別賞

【設計部門】

福岡市水上公園 SHIP'S GARDEN SAILING PARK ..... 14  
～世界へ、市民とともに帆をあげて

### 奨励賞

【マネジメント部門】

千葉港地区における公園からの賑わいづくり ..... 16

RLAの紹介 .....	20
支部活動報告 .....	27
会員名簿 .....	33

#### 表紙のPhoto Story

表紙デザインは、2017年CLA賞の最優秀賞1点と優秀賞5点、計6作品の写真をコラージュしたもので、どの写真も青空を背景にみどり美しく、清々しく、清廉な印象となりました。

いずれの作品も、個性的な取組みやプレゼンテーションが高く評価されたもので、こうして組合せてみると、全体的にはランドスケープの思想が脈々と息づいている、そんな感じがします。

ランドスケープの取組みが新たな社会を築いてゆく、そんな想いのもと、私たちの活動が新たな広がりを迎えつつあることも、見えてくるようです。



# 最優秀賞

設計部門



## グランモール公園再整備

横浜市の大規模ウォーターフロント再開発であるみなとみらい21地区。その先陣を切って1989年に供用開始されたグランモール公園は長く「都市の軸」として市民に愛されていたが、およそ四半世紀を経て公園施設の老朽化に加え、隣接敷地に多くの建物が竣工したことによる周辺土地利用の変化、「横浜みどりアップ計画」等の横浜市の取組もあって再整備が実施された。「Rambling Park ～歩行者軸を超え、憩いと賑わいのあふれる公園へ～」を計画コンセプトとした。この公園の重要な特徴は、約700mの全長にわたって様々な用途の建築敷地に接していること。道路に四方を囲まれながら都市の中で独立して存在するのではなく、そこにアプローチするには隣接する美術

館、商業施設、住宅を介することが前提の公園である。そこで計画にあたってはパブリック領域（公園）とプライベート領域（隣接敷地）の接点に中間領域として「テラス」を設定するという基本構成を採用した。様々に展開する「テラス」空間は、今までの「軸」とは異なる「場」を提供している。人々をそぞろ歩きへ誘うことで屋外のパブリック空間の価値を発見し、それこそがこれからの街をこの公園が牽引する原動力になると考えた。また、広場の中心であり、東西のペDESTリアンネットワークとの結節点を「プラザ」、街区全体を貫く水紋の舗装パターンを施した中央の主動線を「モール」と設定し、バラバラに存在していた4つの広場に対して「グランモール公園」の

イメージ統一を図った。

同時に、公園という都市施設にグリーンインフラの思想を加えていくことに努めた。グランモール公園の再整備は「環境未来都市・横浜」のリーディング事業のひとつでもある。貯留砕石路盤の積極的導入に保水性舗装や水景施設を組み合わせ、大きな水循環の仕組みを公園の中に構築した。雨水は浸透側溝から礫間貯留の砕石路盤に保水され、舗装や植物から蒸発散されるという大きな水循環が生み出されている。さらに、パイプメントはもとよりグレーチングのパターンやファニチャー、従前の照明施設の再利用を含めた光の演出などにも、統一して水循環の仕組みを表現し発信していくことに努めた。

株式会社三菱地所設計  
植田 直樹・津久井敦士

### 作品概要

作品名—— グランモール公園再整備  
所在地—— 神奈川県横浜市西区みなとみらい 三丁目  
発注—— 横浜市環境創造局公園緑地整備課  
設計—— 株式会社三菱地所設計  
設計協力—— 株式会社スタジオゲンクマガイ 熊谷玄、伊藤祐基、渡邊聡美  
株式会社トミタ・ライティングデザイン・オフィス 富田泰行、南雲祐人  
施工—— 《美術の広場地区：第1期》  
[修景施設等]サカタのタネ・田口園芸JV、[園地整備その1]濱田園・アライグリーンJV、[電気設備工事その1]清進・浜川JV、[機械設備工事その1]金子モリヤ特別JV、[高圧受配電設備工事]新興電設工業  
《美術の広場地区以外：第2期》  
[園地整備その2]濱田園・泰山園JV、[園地整備その3]横浜植木[電気設備工事その2]京浜電設、[機械設備 工事その2]興和工業  
設計期間—— 2012年10月～2105年3月  
施工期間—— (第1期)2015年4月～2016年3月/(第2期)2016年3月～2017年1月  
規模—— 23,102㎡(公園全体)  
主要施設—— 広場、植栽、芝生、水盤、噴水、ベンチ、サイン、ほか



みなとみらいのみずかがみ



ケヤキテラス



棧橋の広場



北側から公園を見る（昼）



みなとみらいのみずかがみ



夜光海パイプ



棧橋の広場



北側から公園を見る（夜）

### 作品評

本作品は、1989年に供用された横浜市のみなとみらい21地区の大規模歩行者軸の再整備である。供用から4半世紀が過ぎたこと、周辺建築物が竣工したこと、等から今回の全面見直しとなったものである。応募者は5年前の再整備基本計画をプロポーザルで受託し、昨年度にオープンとなった。この間、市や関係者との様々な協議を進め、何よりも将来につながる全長に亘るグリーンインフラを実現した。舗装面の温度低下、排水施設の軽減、植栽基盤の確保、灌水量の軽減、等の様々な効果が期待できるグリーンインフラの導入により、緑の歩行者軸が鮮明に蘇った。また、夜光虫パイプや美術館前水面といった過去の遺産も十分に引き継ぎ、新時代に対応できるように再生している。波紋状パイプの導入や港を意欲したファニチャー類等、全体に工夫が行き届いており、その総合力が評価された。



# 優 秀 賞

設計部門



## 作品概要

作品名—— 水郷佐原あやめパークのリノベーション  
—風景再生を目指して—  
所在地—— 千葉県香取市  
発注—— 香取市  
設計—— 株式会社グラック  
設計協力—— 株式会社アーク設計事務所  
監理—— 株式会社グラック  
設計期間—— 2011年7月～2015年3月  
施工期間—— 2014年8月～2017年3月  
規模—— 約8.17ha  
主要施設—— 菖蒲田、ハス田、バーゴラ、四阿、トイレ、管理事務所等

## 作品評

本作品は、2011年の東日本大地震で被災した千葉県香取市の「水郷佐原水生植物園」の復興事業である。合わせて、リピーターの確保などの活性化への対応も求められた。  
応募者は6年前の再整備基本計画で受託し、3期に分けたオープンの後、今春グランドオープンとなった。当該地は従前から人気の観光地であり、水郷景観とあやめという十分なポテンシャルを有していた。今回の再整備では、こうした基盤を最大限活用するとともに、過去の原風景の再生という手法により、新たな時代への対応を図っている点が評価された。新設された建築物群も含めて、オーソドックスな手法ではあるが、丁寧に、そして確実に実施されている。こうした仕事の結果、現地の状況も良く、また、提出されたプレゼンテーションも十分に評価された。

設計部門



①敷地周辺の水田地帯 ②敷地内の水面と隣接する与田浦を望む ③④小野川沿いの歴史的街並みを参考にしてデザインした広場・建築の模型と完成した建築群 ⑤花菖蒲を鑑賞しながら楽しむ野点サービス ⑥一年間の演出・体験プログラム

# 水郷佐原あやめパークのリノベーション

## —風景再生を目指して—

### 株式会社グラック

北川明介・西山秀俊・岸井悠子

本プロジェクトは2011年に発生した東日本大震災で被災した千葉県香取市に立地する「水郷佐原水生植物園」の復興事業として立ち上げられ、2011年度に基本計画策定、翌年度に基本実施設計を行い、2017年6月に「水郷佐原あやめパーク」としてグランドオープンしました。

計画・設計の対象となった水生植物園は、香取市の北西に広がる水田地帯に位置し、周辺一帯は「水郷」と呼ばれる地区です。水生植物園再整備計画・設計に当たり、市から与えられた課題は、1. 秀麗な花菖蒲園として「周辺環境とは異なる空間」演出、2. 新規顧客・リピーターの獲得、3. 与田浦地域全体の活性化、4. 通年で楽しめる魅力ある施設への4点でした。これに応えるため、震災被害により失われた「水郷地域本来の風景をとりもどす」こと、即ち、「風景再生」を再整備デザインの目的・目標におくこととし、〈水とつながる〉〈地域とつなが

る〉〈人とつながる〉の3つをソリューションキーワードに据えて設計を進めました。

### 水とつながるデザイン

水郷の風景をつくりだす上で無二の存在とも言える隣接する与田浦を取り込み、人と水（辺）との関係性、接し方を強調・最大化するため、敷地東側に走る市道の一部を廃道とし、水郷ならではの広がりのあるパースペクティブな風景をつくり出しました。

### 地域とつながるデザイン

水郷地域固有の歴史・文化的「形」を水生植物園に反映させるため、江戸期から栄えた街並みの賑わいや地域が育んだ「美」への想いをちりばめるデザインをしました。特にあやめ広場で

は、佐原地区に現存する長屋門や小野川に沿った歴史的街並みを参考にし、エントランスゲート・管理棟など建築物群のグランドデザインを提案しました。

### 人とつながるデザイン

人と人が交わる場面を生む「場」をセット（デザイン）することが重要と考え、1年の行事を介した来園者と地域住民の交流の場として、水生植物園ならではの交流・体験の舞台空間をつくり出しました。また、風物・お祭りに合わせた1年間の演出や体験イベントなどのプログラムを提案し、グランドオープンでは、再整備前から実施されていたサップ舟に加え、広場での野点サービス、地元食材を使ったカフェや土産物店が新たにオープンしました。



# 優 秀 賞

設計部門



## 肥後細川庭園

株式会社虹設計事務所  
 (庭園 2 期工事 (第二庭園等)・3 期工事実施設計、道路設計)  
 奥野 勇・小林冬樹・光益尚登・鈴木賢司・田中 修・松本恵樹・本間眞也

株式会社東京ランドスケープ研究所  
 (庭園基本計画・1 期工事 (池・建築廻り) 実施設計)  
 尾崎友美

清水建設株式会社一級建築士事務所  
 (建築 (松聲閣) 改修設計)

### 概要

本園は江戸時代に熊本細川家下屋敷だった場所で、明治15年に細川家邸宅となり、庭園の骨格はこの頃できた。目白

台地と神田川沿いの低地にまたがり、敷地の北半分は標高差30mの斜面樹林で、南半分の低地を大池とした池泉回遊式庭園である。昭和34年に東京都が買い取り、新江戸川公園として開園、その後文京区に移管されたが、施設老朽化やバリアフリー性不足が目立つようになり、平成27年から改修工事に着手、庭園と建築、隣接道路の改修を行い、平成29年に名称を肥後細川庭園と変えてリニューアルオープンした。

### 既存庭園の改修設計

滝・護岸石組は保全し傾いたものをだけ据え直した。池のヘドロを除去、池の乱杭は更新し、老朽化した土橋は同じ形で復元した。池廻り園路を土舗装にやり替え、段差はスロープとした。

松聲閣や池の周りは、明治時代の写真や日本画を参考に、繁

### 作品概要

作品名—— 肥後細川庭園  
 所在地—— 東京都文京区目白台1丁目1番地  
 発注—— 文京区土木部みどり公園課  
 設計—— 株式会社虹設計事務所  
 株式会社東京ランドスケープ研究所  
 清水建設株式会社一級建築士事務所  
 監理—— 文京区土木部みどり公園課  
 施工—— 株式会社日比谷アメニス(庭園)  
 清水建設株式会社(松聲閣)  
 設計期間—— 2014年6月～2016年3月  
 施工期間—— 2015年6月～2017年3月  
 規模—— 1.85ha  
 主要施設—— ①庭園:滝・流れ、遣水、門、園路、石積、柵など  
 ②建築:受付、喫茶室、集会室、展望所、トイレ



①松聲閣の前から池を見た景色。明治時代の写真や絵画を参考に、繁り過ぎた樹木を除去し往年の景観を回復させた ②平面図 ③リニューアルした松聲閣と前庭。松聲閣の二階は展望室になっている ④龍安寺垣崩しの軽快な竹垣で仕切った前庭。本庭と一体化した明朗なデザインとした ⑤第二庭園 (桜の大木と広場を囲む芝生スタンドを配置した) ⑥緩斜面を生かした遣水 ⑦東南門と南側道路 ⑧⑨板のように薄い景石で作った船着き場や、橋脚石を加工した蹲など、池の畔にはユニークな造形が点在している

り過ぎた樹木を整理し、伸びやかな芝生園地や、池の対岸の笹山と石塔など、本来の景観を回復した。東南門と北西門を新設し、永青文庫との連絡階段を再整備して、目白通りや椿山荘など周辺施設からのアクセスを改善した。また細川家ゆかりの庭園として肥後花菖蒲等を植栽している。

### 第二庭園の設計

児童遊園を廃止した跡を庭園として整備。サクラ大木と広場を囲むように、曲線状の芝生スタンドを作り、野外能等の観覧席を確保し、既存庭園部分に馴染ませる意匠効果を持たせた。

### 建築(松聲閣)の改修設計

松聲閣は本園のシンボルとなる建物で、庭園を一望する位置にある。大正14年に細川侯高田邸新御殿として建設され、近年は老朽化で閉鎖されていたものを再整備した。耐震改修で避

### 作品評

本作品は、東京文京区の目白台地と神田川沿いの低地にまたがった肥後細川家の庭園を再生したものである。庭園や建築物は所有者が変わり、現在は文京区が所有しているが、十分な手入れが行き届かず、様々な土地利用も混在していた。応募者は、この庭園の再生に丁寧に取り組み、池や流れを中心とした既存庭園部の改修、隣接児童遊園を廃止して当該庭園との一体化、当該庭園のシンボルとなる建築物の改修、外周道路や施設との境界部改良、等の多様な対応を行った。それぞれに十分な時代的考察も行われ、改修復元された結果は、地味ではあるものの、十分な内容となっている。また、将来的な運用管理についても、地元自治体だけでなく、周辺観光施設との協議会結成や熊本県との連携実現、等も行っている点も評価された。

難所としての強度を確保し、バリアフリー化も図った。古写真を基に意匠復元した和室を喫茶室・展望室としている。

### 南側道路の改修設計

景観を損ねていたコンクリート塀を撤去し、低くした築地塀をセットバックさせて作ると共に、線形を調整して歩道を拡げ、景観舗装やポケットパークを整備した。

### 地域活性化や熊本との連携・交流

周辺観光施設・文京区・設計者による協議会を立上げ、相互協力や、細川家との縁に基づく熊本との交流を図った結果、永青文庫・和敬塾との境界を、万年塀から格子柵に替えて庭園との一体感を回復させた。また熊本県と協同した開園イベントや松聲閣での熊本文化の紹介も実現した。



# 優 秀 賞

設計部門



①公園中央部。池を一周するウォーキングコースと浮き桟橋を主動線として、広大な水面と公園内外の緑を公園の魅力として活用した ②ウォーキングコース。起点はなく、周辺街区から出入りが可能。整備前（写真②）は草木が生い茂っていた ③浮き桟橋。住民が対岸のコンビニに行き交うなど生活動線となっている

## 七本木池公園

株式会社オオバ

小林高浩・小柳太二・松岡展史・木村晃一・須賀正次

七本木池は半田市の北部に位置する面積10haの市内最大のため池である。築造は江戸時代前期に遡り、地域形成に深く関わってきた。また第二次世界大戦では一帯が空襲で罹災し、池畔に「半田空襲被災の地」碑が建つ。当初は、池を埋め立ててグラウンドとする計画であったが、社会情勢の変化を受けて環境重視へと方針を転換した。

本プロジェクトは、市街地に取り残されたため池が抱える課題を、公園整備によって個性ある地域資源へと転換して、自然

保全、健康づくり、交流の場づくりに取組んだものである。

### ため池をとりまく課題と潜在的価値

愛知県内や半田市内には、農地減少や市街化の進行などにより農用水源の役割を失い、管理が行き届かなくなったため池が多く存在する。七本木池でも池岸に樹木が生い茂り、不法投棄、不審者出没など、衛生・治安上の課題が山積していた。

現状の課題とポテンシャルを把握するため、各種の調査（周辺状況、自然環境、地質、不発弾の磁気探査、立木、景観など）を実施した。その結果、環境省レッドリスト掲載植物種の生育、イシガメなどの在来生物の生息など、貴重な自然環境が残っていることが判明した。また、台風シーズン等には水位を下げた年間の水位変動が大きい特徴が明らかになった。

### 作品概要

作品名—— 七本木池公園  
所在地—— 愛知県半田市一本木町3-107  
発注—— 半田市都市計画課  
設計—— 株式会社オオバ  
調査協力—— 日本物理探査株式会社  
監理—— 半田市都市計画課  
施工—— 八洲建設株式会社  
設計期間—— 2011年6月～2014年3月  
施工期間—— 2013年11月～2015年3月  
規模—— 11.9ha  
主要施設—— 散策路、ウォーキングコース(1周約1.65km)、多目的グラウンド、浮き橋、遊具、健康遊具、ベンチ、四阿、駐車場(62台)、多目的トイレ、自転車置き場、サクラ並木(既存樹保全育成・幼木植栽)

### 作品評

本作品は、愛知県半田市の農業用ため池の外周整備であり、周辺が市街地化する中で取り残され、敷化したため池の外周を市民に開かれた公園的空間として整備したものである。  
応募者は、不発弾調査から生態系調査などの様々な視点からの調査と、入念な地元とのコミュニケーションにより、計画対象地のポテンシャルと地元ニーズの把握を行っている。そしてランドスケーププランニングとして取り得る多様な手法を駆使して、市民に愛される魅力的な水辺空間を具体化した。場の状況を活かしたゾーニング、周辺道路の設置、場ごとの特徴を活かした景観と空間づくり等、派手な仕掛けは無いものの、堅実でしっかりとした成果が評価された。



⑤公園敷地は狭いところでは幅10m程度しかない(手前の草地)。隣接する住宅地と庭の木々を景観計画に取り込み、広がりのある風景づくりに取組んだ ⑥芝生広場から池と対岸を見る。緑と水の景観に住宅地が溶け込む ⑦斜面の高低差を活かした遊具。人造石研ぎ出しのすべり台は、池に飛び込むような感覚が得られることから、子どもたちに人気がある ⑧健康運動器具。ジョギングの合間に体を動かす人でもいつも賑わう ⑨池の北部に位置する自然観察ゾーン。入り江の静かな環境のもとで散策やジョギングを楽しむことができる ⑩放課後に立ち寄りた学生の姿。美しい景色が幅広い年代をひきつける。オープニングイベント。左から⑪吹奏楽演奏、⑫記念植樹、⑬ウォーキング大会、⑭花火大会(手筒花火)

### 美しい風景の中で健康づくりを楽しむライフスタイルの提案

テーマを「ため池を核とした水辺のオアシス」に定め、その実現の鍵として、周辺の住宅や庭木の姿を借景に取り込み、地域と調和の取れたダイナミックな風景の創出に取組んだ。広大な水面と岸辺の植生、背後の住宅と庭の木々、これらが織り成す美しい風景を眺めながら健康づくりができるウォーキングコースを提案し、設計を進めた。

一方、半田市は、協議会や地元説明会を定期的に行い、計画周知・意見聴取に丁寧に取り組む、事業の推進力となった。

### 地域活性化の核となるオープンスペース

これまで南北に長い池の存在がまちを東西に隔ててきた。新たなオープンスペースがこれを解消して、東西のまちが融和することを目指した。具体的には、池の中央部に水位変動に合わせて上下する浮き橋を配置して歩行者動線と結んだ。そして、あそび(遊具)、鑑賞(サクラ)、憩い(芝生広場)、水辺(自

然観察路)の4つのゾーンを環状に配置して、ウォーキングコースでこれらを連結した。

### 地域に愛される場所を創る

2015年3月31日、ウォーキングコースと浮き橋を配した公園が誕生した。オープンに合わせて半田市主催のウォーキング大会、地元主催の花火大会などが行われ、盛大に開園を祝った。その後も口コミなどで利用者層が広がり、現在では休日・平日・昼夜を問わず大勢の市民がウォーキングに訪れ、健康づくりの拠点として親しまれている。

この反響を受けて、半田市では他の地域でもため池を活用した公園の再整備に取り組むこととしており、市内全域へと拡がりを見せ始めている。

緑とオープンスペースのポテンシャルを、都市・地域・市民のために最大限引き出すステージへの移行が求められている現在、その一例として参考になればこの上ない喜びである。



# 優 秀 賞



## 作品概要

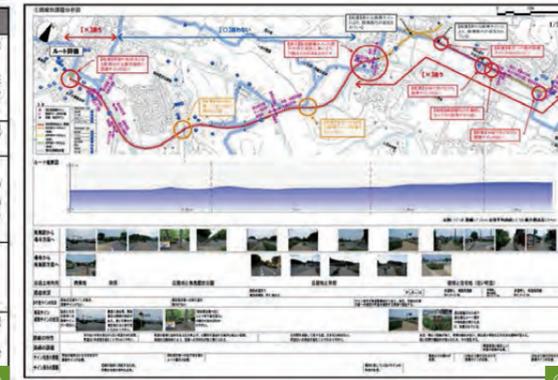
作品名—— 古都・明日香における地域振興を目指した  
広域サインの計画  
対象地—— 奈良県高市郡明日香村他  
発注者—— 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所  
事業目的—— 歴史資源・観光施設を周遊する来訪者の満足度・  
利用者数の向上を目的とした観光サインなどの計画と  
実施設計  
事業体制—— 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所、  
奈良県中和土木事務所、橿原市、高取町、明日香村  
協働者等—— なし  
事業期間—— 平成24年10月～平成27年3月  
事業規模—— 面積規模:24km<sup>2</sup> (村域)

## 作品評

奈良県明日香村は、高松塚古墳をはじめとする貴重な歴史的文化的資源が数多く集積し、これらが周辺の農村景観と一体を成していることから「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」の対象地である。本作品は、この明日香村に点在する広域観光サイン計画を3ヶ年に及び調査と計画で取りまとめたものである。  
応募者は、利用者に対するGPSロガー調査やアンケート調査等の実施、行政関係者に対する勉強会の実施、手持ちマップの作成、等の総合的な対応を行い、結果として、統一デザインによるサインを、計画的に配置し、補足情報を手持ちマップやIT情報で補いつつ、利用者の利便性を向上させた。そして、全体としてサインの数を大きく減らし、景観の効果を最大限に発揮させた。こうした総合力が評価された。

表 明日香村の特徴の読み取り

着眼点	読み取り	対応方針	本業務での成果
ランドスケープの位置づけ	「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」により歴史的風土・景観を保全	景観を阻害しないサインのデザイン、設置位置、設置数とする	○モックアップで確認したサインデザイン ○沿道状況と空間特性の調査・分析評価を踏まえたサインの配置計画
既存サインの状況	市町村間で配置や表示内容が不連続なサイン 多くの歴史資源に多種多様なサインが設置済、しかし維持管理が不十分で損壊被害も発生しているサインもある	表記内容や配置が連続していることが必要 デザインの整合性確保にむけた改善、維持管理できるサイン計画	○サインの表記および配置ルールを設定 ○配置計画の見直し ○撤去しないサインについては、権記の見直しとともにデザインも改善する計画
地形	対象周辺の豊かな谷戸地形が目的地へ向かう際の重要な手がかりとして機能	地形が分かりやすい地図表現	○マップデザインの実施
配布地図との整合性	駅や観光協会などで配布されている地図など、表記内容の違いが来訪者が混乱	サインの地図と配布している地図との整合性確保 ○関係市町村へマップデータを提供	○勉強会での課題の把握 ○関係市町村へマップデータを提供



①表-着眼点と対応方針 ②図-沿道状況と空間特性 ③GPSロガーとヒアリングシート ④来訪者への対面ヒアリング ⑤サインのモックアップを現地で確認 ⑥関係自治体との勉強会 ⑦地形などの表現を工夫したマップデザイン

## 古都・明日香における地域振興を目指した広域サインの計画

### パシフィックコンサルタンツ株式会社

西上律治・岡野郊子・小西弘朗・上津原 信博・井爪康夫・鶴丸順英・有田義隆・上出竜司・福田雅世・山本早織

国営飛鳥歴史公園（国営飛鳥・平城宮跡歴史公園の飛鳥区域）に、5番目の地区であるキトラ古墳周辺地区（以降キトラ地区と略す）が2016年9月に新たに開園した。本業務は、このキトラ地区の新規開園を機として、概成開園済みの4地区（祝戸地区・石舞台地区・甘樫丘地区・高松塚周辺地区）や公園周辺の歴史資源・観光施設を周遊する来訪者の公園利用満足度・公園利用者数の向上を目的として、観光サインや配布している

地図について調査・計画したものである。

計画にあたっては、「表-着眼点と対応方針」のように本計画や現地の特徴を読み取り、(1)計画実施方針、(2)サイン整備の基本方針、(3)広域観光サイン計画、を定めて検討・計画を進めた。

### (1)計画実施方針

①来訪者の利用実態調査の実施：来訪者の動向（来訪目的や目的地、来訪頻度、移動経路）やサインなどの情報提供に対する課題を把握するため、GPSロガーによる移動実態調査および対面ヒアリングを、四季を通じて実施

②周辺自治体との連携を進める勉強会の開催：連続したサイ

ンの計画や、誘導対象の整合性を図るため、関係自治体（奈良県中和土木事務所、橿原市、高取町、明日香村）と課題を共有する勉強会を開催

### (2)サイン整備の基本方針

◎来訪者の利用実態調査では、①初めての来訪者の多くが通る「基幹ルート」がある、②再来訪者は、来訪目的によって多様な訪問先・通行ルートを選択している、③再来訪者からは、既存サインが風景を阻害しているとの意見もある、ということ把握した。

◎そのため、現地に設置するサインは、初めての来訪者向けにターゲットを絞るとともに、サインだけでなく手持ちマップやITを活用した情報を充実させることで、多様な来訪者のニーズを満足させる

◎上記の考え方を、関係機関で共有できるサインの表記及び配置ルールとして、広域サイン計画を策定する

### (3)広域観光サイン計画

◎広域観光サイン計画にあたっては、以下の5つの目標を設定し、基幹ルートにおいては、沿道状況と空間特性を把握する調査を行った上で配置計画を立案した。



観光サインの計画は、その場所の特徴と、どのように利用して欲しいかを、具現化する計画にほかならない。今後も本計画が古都明日香の魅力を伝える一助となることを願っています。



# 優 秀 賞



## かなたけの里公園のパークマネジメント

株式会社 エスティ環境設計研究所  
渋江章子・松本和也・豊崎修平

本作品は、「かなたけの里公園」の整備に関わる基本構想・基本計画、管理運営計画、そして供用後の管理運営といった一連のプロセスを、地域に根差した新しい公園づくりとしてのパークマネジメントと捉えたものである。

公園が所在する金武地区は福岡市西区の最南部に位置し、東には室見川、西部から南部は飯盛山をはじめとする脊振山系に

連なる自然環境豊かな地域で、福岡市の生鮮食料供給地として重要な役割を担っている。福岡市中心部からは車で30分程度の都心部に近い地域で、市街化調整区域として現在も農業を中心とした生業が営まれ、良好な農村景観が保全されている地域である。

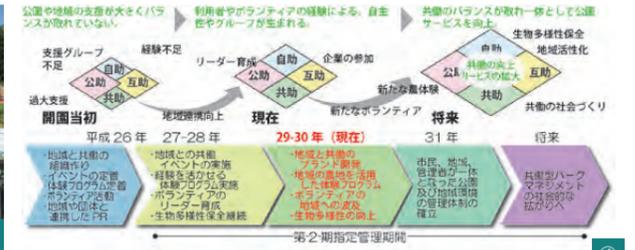
〈基本構想・計画〉：高齢化や農業の担い手の減少、農村景観・生物多様性の保全等の様々な課題を持つ金武地域では、農業振興及び地域内外の人々の交流促進が強く望まれていた。そこで、計画地周辺の農的環境との調和を図りながら、地域の持ち味や市街地に隣接する立地を活かし、これらの課題に取り組んでい

### 作品概要

作品名—— かなたけの里公園のパークマネジメント  
所在地—— 福岡県福岡市西区金武1367  
発注—— 福岡市  
基本設計—— 株式会社エスティ環境設計研究所  
基本構想—— 株式会社エスティ環境設計研究所  
管理運営の業務実施体制(協力会社等)  
委託者—— 福岡市  
指定管理者—— チーム里の環(九州林産株式会社・株式会社エスティ環境設計研究所共同企業体)  
公園管理運営を連携して行うNPO:環境文化プロジェクト機構  
公園管理運営を連携して行う地域組織:かなたけの里公園運営推進委員会  
計画・設計・管理運営期間——  
平成19年7月～平成32年3月  
規模—— 12.7ha  
主要施設—— 管理棟、体験畑、花畑、湿地、せせらぎ、果樹園(ブドウ、クリ、ミカン)、竹林、芝生広場、屋外炊事棟、農機具倉庫、多目的駐車場、農業体験農園(分区分園)

### 作品評

本作品は、福岡市郊外の谷戸地を、貴重な自然環境を保全し、農の風景を楽しむ公園として整備し、農作業体験、自然体験学習、管理作業体験、活性化イベント、ものづくり体験、等の活用を行っているものである。  
応募者は、基本構想・基本設計と管理計画作成、ならびに指定管理者の共同経営体として関わっており、当該地の計画・運営の中心にあると云える。特に管理運営では、指定管理者である自らの組織のみならず、連携して活動するNPOや地域組織、学識経験者等、利用者ワークショップ、などの様々な団体と連携して運営している。こうした手法はオーソドックスなものであるが、健全で着実な成果をあげていること、さらには、公園内から地域へと活動の輪が広がりがつたことなどが評価された。



- ①地域の農家と連携した園外遊休農地での米づくり
- ②基本計画における平面図及び活用イメージ
- ③公園開園に向けた地域住民・行政・NPO 共働の試行体験
- ④共働型パークマネジメントに向けた展開イメージ
- ⑤園内の環境を活かした四季の自然観察会

く計画を地域と共に検討した。

〈管理運営計画〉：公園開園に向け、行政及びNPOによる予定地活用の取り組みと連携し、地域住民が積極的に参加する試行体験の実施や管理運営の体制づくりより効果的な整備の提案を行った。

〈管理運営〉：現在の管理体制は、指定管理者、地域住民による組織「運営推進協議会」、前述した予定地活用の取り組みを進めたNPO、さらには緑地環境の学識者等との連携体制を中心として構成されている。私たちは、『ともに育む里の環(わ)』を管理運営の基本理念とし、地元の農家を中心に直接雇用した

スタッフによる、農体験指導や維持管理作業を実施している。また、農体験プログラム、自然観察会、ものづくり教室等の活動を行うとともに、地域の商店や公民館、JA等の多様な参加によるイベントを実施することで、地域活性化と広い市民参加を促している。また、ホテルの生息地保全をはじめとした希少種の保護や、園内の環境を活かした湿地帯の創出と生き物の生息環境に配慮した草刈管理といった活動を日ごろの維持管理作業で行うとともに、野鳥の会や地域住民と共同で行う園内モニタリングを実施することで、生物多様性保全に向けた取組を行っている。



# 特別賞

設計部門



## 福岡市水上公園 SHIP'S GARDEN SAILING PARK ～世界へ、市民とともに帆をあげて

株式会社 エスティ環境設計研究所 井口直  
スピングラス・アーキテクト 松岡恭子  
リズムデザイン 井手健一郎・宗像友昭  
株式会社松下美紀照明設計事務所 松下美紀

本設計は福岡市で最も古い街区公園を、“天神ビッグバン”（福岡市都心部における国家戦略特区をトリガーとして新たな空間と雇用を創出する取組み）の主要事業のひとつとしてリニューアルを行ったものです。

水上公園（中央区西中洲）は、天神と博多を結ぶ福岡市都心部の幹線道路である明治通りと、那珂川及び薬院新川に挟まれた場所に位置しています。幹線沿いかつ水辺沿いの好立地であり、全方位から見える・見られる場所となっています。

水上公園に関わるプロジェクトの特徴の一つは、業務の実施体制です。1,200㎡程度の小さな公園でありながら公園や建築の専門家のみならず、照明や施工、維持管理、イベント、テナントなどのあらゆる専門家が一堂に会し、計画段階から施工段

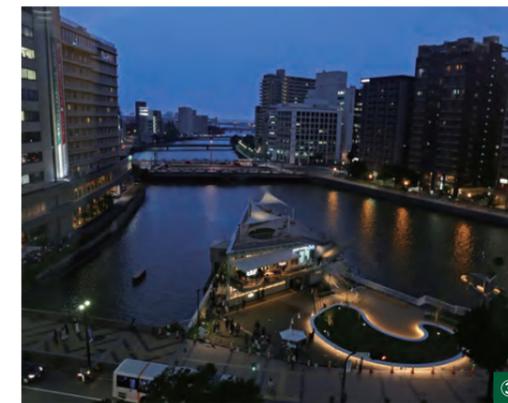
### 作品概要

作品名—— 福岡市水上公園 SHIP'S GARDEN SAILING PARK  
～世界へ、市民とともに帆をあげて  
所在地—— 福岡市中央区西中洲地内  
発注—— 福岡市  
設計—— 株式会社 エスティ環境設計研究所  
設計協力—— スピングラス・アーキテクト:建築設計  
リズムデザイン:建築設計  
株式会社松下美紀照明設計事務所:照明デザイン  
監理—— 福岡市  
施工—— 公園部:株式会社西鉄グリーン土木  
建築部:株式会社松本組  
設計期間—— 2015年8月25日～2015年12月15日  
施工期間—— 2015年11月～2016年7月  
規模—— 0.12ha(内SHIP'S GARDENによる1階占有面積344㎡)  
主要施設—— SHIP'S GARDEN(飲食施設)

### 作品評

本作品は、福岡都心部の水辺空間にある街区公園を、民間活力を導入して整備・管理運営を行ったものである。当該公園は福岡市で最も古い街区公園だが、賑わいの利用拠点として定着しなかった。しかし、市が進める“天神ビッグバン”の主要事業のひとつとしてリニューアルしたもので、当該公園だけでなく隣接する緑道も含めた一公園として建蔽率を稼ぎ、計画を実現させた。国が進める公園利用改革に合わせた福岡市の英断も、当該作品の背景にはある。  
応募者は、事業コンソーシアムの一員として公園整備部分を担当したもので、ランドスケープアーキテクトとして関係者とのコラボレーションに苦心の跡が感じられる。しかし、屋上部分との連続性をもっと強調されていたれば、との意見もあり特別賞となった。

設計部門



① エントランスを演出するロングベンチとアート作品（新宮晋氏 / 風のプリズム） ② 那珂川を眺めながらくつろぐ人々 ③ 那珂川と薬院新川に挟まれた水上公園の夜景 ④ 歩道沿いにせり出したロングベンチと間接照明による公園の雰囲気のにじみだし

階まで通してそれぞれの専門の見地から議論を重ねて設計を進めました。

設計にあたっては、休養施設を設けながら公園としての面積と魅力をどのように確保するかが大きな課題でした。そのため、福岡都心部の立地や川に挟まれた地形、三角形の特徴的な敷地形状など土地の特徴や周囲の魅力を公園に取り入れながら開放的な空間としています。さらに、個々の施設に多くの機能を持たせ、シンプルな空間とすることを設計方針としました。

具体的には、公園としての面積を確保するため、休養施設の屋上を誰もが利用できる広場とし、公園部分から直接屋上へと

アプローチできるようにしています。また、公園としての魅力を確保するため、休養施設の屋上へとスムーズに登っていけるよう丘を設け、この丘が色々な高さから水辺の景観を楽しむことができる視点場や、イベント時のステージ等として機能するようにしました。丘の周囲を囲うように配置したベンチは、公園の雰囲気周辺へのにじみだしていき、明治通りを歩く人々がふと座ってみたいくなるように歩道側までせり出した形状としています。夜にはベンチに設置された間接照明に光が灯り、ベンチが浮かび上がって見えることで公園のシンボリックな夜景を演出します。



①千葉湊大漁まつり ②バーベキュー ③みなとの屋台 ④展望レストラン ⑤野外レストラン(ビアガーデン) ⑥みなとのフリーマーケット

## 千葉港地区における公園からの賑わいづくり

株式会社塚原緑地研究所

塚原道夫・斉藤久芳・鈴木健太・佐久間徹

千葉みなと地区は、京葉臨海工業地帯を物量から支える千葉港の一角にあります。この地区には、千葉ポートパーク、千葉ポートタワー、千葉みなと港湾緑地があります。当社は、指定管理者・受託管理者としてこの3つの施設の管理運営を行っています。植物の維持管理、建築・施設・設備の保守管理、施設供用業務等を行います。さらに自主事業として、飲食事業（レストラン、野外レストラン、ビアガーデン、バーベキュー、みなとの屋台）、販売事業（お土産店、コンビニ）、催事（フリーマーケット、コンサート、パフォーマンス、体験教室等）を実施しています。これらの事業によって、公園の魅力を高め、集客を増し、地域の賑わい創出に取り組んでいます。

### 作品概要

作品名—— 千葉港地区における公園からの賑わいづくり  
 対象地—— 千葉県千葉市中央区中央港1丁目地内  
 発注—— 千葉県：千葉ポートパーク  
 千葉市千葉ポートタワー、千葉みなと港湾緑地  
 事業期間—— 平成24年度~平成33年度  
 施設概要—— 千葉コートタワー 敷地面積：1,680㎡  
 塔：鉄骨造り、高さ125m  
 施設：ホール、展示室、売店、レストラン等  
 千葉ポートパーク 敷地面積：266,700㎡  
 施設：広場、野外ステージ、展望の丘、ビートプラザ等  
 千葉みなと港湾緑地 敷地面積：16,768㎡  
 施設：ウッドデッキ、広場等  
 事業種別—— 千葉ポートパーク 指定管理者  
 千葉ポートタワー 指定管理者  
 千葉みなと港湾緑地 受託管理者

### 作品評

応募者は、公園に関わるランドスケープアーキテクトとして、当該地域全体の植物・建築・施設・設備の現状を的確に把握して、長期的な視点から育成管理、保守更新計画を作成し、設置者に提案して計画的・長期的に実施している。また、公園内で販売・飲食事業を積極的に行うとともに、各種イベントを開催して利用者サービスを向上し、こうした事業によって得られた利益を、維持管理費に充当し、公園に還元している点が評価された。  
 公園マネジメントへと領域を広げている点も評価されたが、プレゼンテーションに対する意見もあり奨励賞となった。

## CLA賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA賞選考委員長 阿部 伸太

CLA賞は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたもので、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが行った仕事をプロが評価し、表彰するというシステムに特徴があります。同時に、応募者は自己が実施した業務の成果について、改めて応募資料という形に取りまとめることにより、個々の業務の再チェック、すなわち自己研鑽と品質保証の一翼を担うという面からも意義あるものと考えております。

今年度は、昨年度の制度改訂に沿って、作品募集を4月半ばに発表し、7月末を期限として行いました。その結果「設計」「調査・計画」「マネジメント」という3分野で、15社から19作品の応募となり、昨年度より約1.6倍増という結果となりました。時間的余裕をもって応募資料の準備ができるため、作品募集期間を見直した成果は確実に功を奏しているようです。応募くださった皆様に厚く御礼申し上げるとともに、会員各社ならびに技術者皆様のより一層の社会への貢献を期待いたします。

今年度応募された作品は、例年と同様、非常に多様な領域からの作品が多く、ランドスケープの領域がますます拡大していることをあらためて実感しました。各委員は、事前に配布された応募作品の資料に対して募集要綱に示された5つの視点（①独創性・新規性、②社会的課題解決力、③市民・ユーザー評価、④プレゼンテーション力、⑤ランドスケープ職能への貢献度）から評点を付け、選考会当日に集計しました。

選考会では、こうした集計結果を参考として、改めて作品毎に賞を付すにふさわしい作品か否かについて討議し、8作品が検討対象として残りました。次に、ランドスケープの新領域を広げる作品、新技術や新しい提案等の視点から、再度対象作品を検討しましたが、先の8作品以外に新たに追加されるものはありませんでした。最後に、この8作品について検討し、最優秀賞1作品、優秀賞5作品、特別賞1作品、奨励賞1作品を選出いたしました。

どの作品もプロジェクトに対して真摯に取り組み、様々な課題を解決するための手法としてランドスケーププランニング、デザイン、マネジメントが展開されており、そうしたコンセプトやプロセスに係わる部分が、丁寧に、かつ解りやすく表現されたものが高く評価されました。今年は特に、応募者がランドスケープアーキテクトとして、そのプロジェクトの課題解決

に際してどのように働きをしたのか、という点について議論が集まり、そのことを具体的かつ解り易く解説しているプレゼンテーションが評価されました。

社会に対してランドスケープという職能を如何にアピールするかが今日の造園界にとって大きな命題です。それぞれのプロジェクトが抱える課題解決を丁寧に行っていくことは言うまでもありませんが、多様な分野とのコラボレーションやこれまではない分野や発想とのイノベーション、そして、より多くの人びとの共感と関心を引き込むアウトプットを世に送り出し続けることが重要であると考えます。CLA賞はそうした意味からも、単なる顕彰制度にとどまらず、ランドスケープコンサルタントの様々な技術力向上に繋がるとともに、社会へアピールする材料として活用されることも含め、会員企業や技術者の皆様の糧になることを願って、選考結果のご報告といたします。

### 作品の応募と選考結果

部門	応募	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設計	13点	1点	3点	1点	該当なし
調査・計画	3点	該当なし	1点	該当なし	該当なし
マネジメント	3点	該当なし	1点	該当なし	1点
計	19点	1点	5点	1点	1点

### 選考委員

委員長	阿部 伸太	東京農業大学 准教授
副委員長	内藤 英四郎	CLA 専務理事
委員	石井 ちはる	CLA 広報委員長
委員	入江 彰昭	東京農業大学 准教授
委員	卯之原 昇	(一社)日本造園建設業協会 技術委員長
委員	篠沢 健太	工学院大学 教授
委員	霊山 明夫	(一社)日本公園緑地協会 常務理事
委員	西上 大輔	全国1級造園施工管理技師の会 (一造会) 技術部会長
委員	萩野 一彦	CLA 技術委員長
委員	町田 誠	国土交通省都市局 公園緑地・景観課 課長

植田直樹 (うえだなおき)



1965年 東京生まれ  
1989年 東京大学農学部緑地学研究室卒業

現在 三菱地所設計ランドスケープ設計室長  
代表作：丸の内仲通り  
丸の内パークビル・一号館広場  
パレスホテル東京

津久井敦士 (つくいあつし)



1977年 群馬県高崎市生まれ  
1999年 日本大学農獣医学部農学科卒業

現在 三菱地所設計都市環境計画部チーフランナー  
代表作：グランモール公園再整備  
大手町フィナンシャルシティ  
安川電機「YASKAWAの森」

北川明介 (きたがわあきすけ)



1975年東京農業大学農学部造園学科卒業。㈱グラク代表取締役。市街地内の既存緑空間の利活用や再生プロジェクトに多数関わっている。

1992年東京農業大学造園学科卒業。2000年㈱グラク入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。公園・緑地のマネジメントや再生、民間プロジェクト等における事業マネジメントに関わる。時代を見据えたランドスケープアーキテクトの職能を模索、実践することを目指して活動中。

西山秀俊 (にしやまひでとし)



1992年東京農業大学造園学科卒業。2000年㈱グラク入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。公園・緑地のマネジメントや再生、民間プロジェクト等における事業マネジメントに関わる。時代を見据えたランドスケープアーキテクトの職能を模索、実践することを目指して活動中。

1967年宮崎県生まれ。九州を転々と過ごす。1993年熊本大学工学部工学研究科修了。同年パシフィックコンサルタンツ株式会社に入社。情報分析や情報を活用した地域活性化に関する業務に携わる。データを用いた仮説の立証が得意。最近では、航空レーザ測量による森林データを活用した林業の支援業務に取り組む。

上津原信博 (うえつはらのぶひろ)



1967年宮崎県生まれ。九州を転々と過ごす。1993年熊本大学工学部工学研究科修了。同年パシフィックコンサルタンツ株式会社に入社。情報分析や情報を活用した地域活性化に関する業務に携わる。データを用いた仮説の立証が得意。最近では、航空レーザ測量による森林データを活用した林業の支援業務に取り組む。

井川康夫 (いのつめやすお)



1975年京都生まれ。大阪育ち。2001年神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科修了。都市計画事務所を経て2006年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社。景観保全誘導施策の立案や歴史文化資源を活用した地域づくりに係るほか、公園の管理運営計画、サイン計画等にも従事。第2回なら景観調査広告賞受賞 (2014年)

鶴丸順英 (つるまるのぶひで)



1969年 延岡生まれ。1994年芸術工科大学卒業。株式会社ランテック計画事務所を経てパシフィックコンサルタンツ株式会社入社。飛鳥歴史公園をはじめ、海の中道海浜公園、明石海峡公園などの国営公園を中心に公園緑地の計画・設計に従事。最近では、道の駅等、民間事業者が提供する魅力ある公共サービス施設づくりにも注力。

有田義隆 (ありたよしたか)



1973年西宮市生まれ。難波育ち。大阪府立大学大学院農学生命科学研究科修了。㈱朝平都市計画事務所を経て2003年にパシフィックコンサルタンツ株式会社入社。ランドスケープ・まちづくりに関して、構想・計画から設計・事業化まで、具体化に向けた一連の流れづくりに奮闘中。共著書「いま、都市をつくる仕事」(学芸出版社)

岸井悠子 (きしいゆうこ)



2005年東京農業大学造園科学科卒業。同年、㈱グラク入社。商業施設のランドスケープデザインや臨海緑地のランドスケープデザイン、公園リニューアルデザイン、個人邸の庭等を担当。土地の魅力を活かした、地域の人々に愛され続けるランドスケープデザインを目指しています。

奥野勇 (おくのいさむ)



故伊藤邦衛氏の下で、名古屋市内に新設する日本庭園 (徳川園) の設計・監理をして以来、12年ぶりの日本庭園の設計が、受賞作の肥後細川庭園でした。明治初期の庭園の改修で、新設とは違った面白さがありました。派手さは無いですが、じっくり眺めると面白さが見えてくる庭園です。皆様も是非、一度御覧になって下さい。

小林冬樹 (こばやしふゆき)



㈱虹設計事務所・環境設計室長、疎開先の武蔵野の屋敷森で誕生、少年前期学校園で活躍、同後期文学と登山に逃避、青年期緑と造園で社会復帰に努力、以降加賀中学校日本庭園設計、見沼緑道西縁設計 (大宮市景観賞) 蒲原親水公園設計 (緑の都市賞) 皇居宮殿地区及び東地区庭園樹林管理検討等多数の調査・設計・計画の業務に当たる。

尾崎友美 (おざきともみ)



10代半ばより、日米でランドスケープの設計・施工に従事。平成29年度より、㈱東京ランドスケープ研究所にて制作事業を立ち上げる。現在は、民間の開発プロジェクトを中心に事業展開中。技術士 (建設部門、総合技術監理部門)、一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士、造園技能士。

上出竜司 (うえでりゅうじ)



1985年和歌山県生まれ。2011年大阪府立大学大学院生命環境科学研究科修了。同年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社。主に駅前広場、防災緑地の計画・設計、土木構造物の景観設計に従事。地域らしさ、その場らしさを感じられる空間デザインの実現に取り組む。

福田雅世 (ふくだまさよ)



1981年生。栃木県育ち。東京農業大学造園科学科卒業。ヘッズ〜パシフィックコンサルタンツ(株)を通じて、ランドスケープの計画、設計に携わる。樹木医、1級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト。第18回国際バラとガーデニングショーでは最優秀賞を受賞した実践派。

山本早織 (やまもとさおり)



1988年大阪府生まれ。2013年京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了。2013年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社。主に、都市計画、観光、バリアフリー等の計画策定や社会実験等の運営支援等に従事。

澁江章子 (しぶえあきこ)



1987年、九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。2000年、株式会社エスティ環境設計研究所の取締役就任。2016年、京都造形芸術大学大学院 環境デザイン領域・日本庭園分野修了。2016年、株式会社エスティ環境設計研究所の代表取締役就任、現在に至る。公園や緑地、文化財、庭園などの計画・設計や市民参加によるまちづくりに携わる。

小林高浩 (こばやしたかひろ)



1986年3月 信州大学農学部卒。㈱飯沼コンサルタントを経て㈱オオバ名古屋支店勤務。緑の空間を舞台に、調査・計画・設計から管理運営まで「人も生きものも居心地の良い場所づくり」に取り組んでいる。代表作：愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」、中部国際空港セントレア植栽設計、戸田川緑地、東山植物園「桜の回廊」など。技術士、RLA、公園管理運営士。

小柳太二 (こやなぎたにい)



愛知県出身。1994年㈱オオバ入社。名古屋支店まちづくり計画部所属。都市及び地域のまちづくり構想計画、防災・減災計画、公園や駅前広場の計画設計など幅広く従事。地域の地形や歴史を読み解いてまちづくりを行うことが目標。技術士 (都市及び地方計画)。趣味はビールを飲みながらの音楽鑑賞 (ビートルズやナイアガラ)。

松岡史展 (まつおかふみひろ)



2003年3月に北海道大学大学院農学研究科を卒業。その後、㈱飯沼コンサルタントに入社し、2009年より㈱オオバ名古屋支店まちづくり計画部に勤務。主に公園緑地の計画・設計、ワークショップを担当。近年は国営木曾三川公園の自然体験イベント「エコバラクラブ」にも参加している。技術士 (都市及び地方計画)、RLA。

木村晃一 (きむらこういち)



1973年愛知県生まれ。中部大学建築学科卒業。建築設計、不動産開発業を経て、2009年㈱オオバ名古屋支店まちづくり計画部に勤務。主な業務分野は、公園計画・設計ならびに建築計画、ワークショップ業務。愛・地球博記念公園などを担当。趣味はまちあるき (NPO活動) と溪流釣り (お昼寝)

松本和也 (まつもとかずや)



2007年、九州工業大学大学院工学研究科建設社会学専攻修了。同年、株式会社エスティ環境設計研究所に入社。市民参加やマネジメントの視点をもった公園や緑地の計画・設計及びまちづくり計画を中心に、九州各地の行政計画策定に携わる。第32回都市公園等コンクール「一般社団法人日本公園緑地協会会長賞」受賞。

豊崎修平 (とよさきしゅうへい)



2009年、九州大学芸術工学部芸術工学専攻修了。2013年、株式会社エスティ環境設計研究所に入社。かたけの里公園の現場スタッフとして、市民参加、地域共働によるパークマネジメントを実践している。第32回都市公園等コンクール「一般社団法人日本公園緑地協会会長賞」受賞。

井口直 (いのくちすなお)



2007年、琉球大学環境建設工学科卒業。2009年、熊本大学大学院自然科学研究科修了。2011年、株式会社エスティ環境設計研究所に入社。公園や緑地、文化財、庭園などの外部空間を対処とした計画・設計に携わる。主な受賞として、平成25年熊本景観賞「緑と水の景観賞」、第27回福岡市都市景観賞「大賞」など。

松岡恭子 (まつおかきょうこ)



1987年、九州大学卒業後、東京都立大学大学院、コロンビア大学大学院で修士課程修了。1992年独立以降、建築を中心にプロダクトから土木構造物まで、mmからkmまでのデザインを手がけている。主な受賞として、福岡県文化賞、グッドデザイン賞、福岡市都市景観賞大賞、福岡県美しいまちづくり建築賞大賞など。

須賀正次 (すがしょうじ)



1990年3月 岐阜大学卒業。同年㈱オオバ入社。名古屋支店まちづくり部都市整備課所属。主に開発申請や基本設計、実施設計に従事。業務内容はゴルフ場の設計から公園、駅前広場、宅地造成など多岐にわたる。近年では石巻市の震災復興業務にも従事。

西上律治 (にしがみりつじ)



1968年生まれ。大阪育ち。大阪府立大学農学部卒業。1989年にオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学ランドスケープユニットに交換留学。1991年にパシフィックコンサルタンツに入社し、2003年より東京勤務で現在に至る。趣味は、読書 (ここのところ時代小説が大好き)、旅行、山歩き、写真、料理。

岡野郊子 (おかのさとこ)



1969年生。三浦半島 (横須賀・横浜) 育ち。横浜国立大学工学部卒業。1991年にパシフィックコンサルタンツに入社し、ランドスケープ、景観デザイン、まちづくりに関する計画、設計に携わる。現在は、地域経営戦略部に異動し、パークマネジメント事業など「ウェルネス」をテーマとしたPPP地域拠点の事業プロデュース・運営に取組み中。

小西弘朗 (こにしひろあき)



1966年生。岸和田育ち。大阪府立大学農学部卒業。1990年にパシフィックコンサルタンツに入社し、ランドスケープ、まちづくり、ユニバーサルデザインに関する調査、計画、設計に携わる。現在は北海道支社勤務。共著書「マゾヒスティック・ランドスケープ」、「福祉を広げる」。

井手健一郎 (いでけんいちろう)



2000年、福岡大学工学部建築学科卒業。2004年、リズムデザイン設立。2005年より福岡のデザインイベント、デザインニングの企画・プロデュースをつとめる (共同主宰)。2013年から現在まで福岡大学工学部建築学科非常勤講師。主な受賞として、第26回福岡市都市景観賞「活動賞」、第29回福岡県美しいまちづくり建築賞「大賞」など。

宗像友昭 (むねかたともあき)



2005年、福岡デザイン専門学校 環境デザイン科卒業、2006年、デザインニコー級建築士事務所に入所。2011年、リズムデザイナー級建築士事務所に入所。2012年、design office TERMINAL一級建築士事務所を設立。主な受賞として、JCDデザインアワード 2015、木田隆子賞/銀賞/新人賞。

松下美紀 (まつしたみき)



1989年 松下美紀 照明設計事務所を設立。日本全国のプロジェクトへ参画し、重要文化財の照明デザイン、国立公園や、まちの照明ガイドライン制作、教育施設、文化施設、医療施設、交通機関から商業施設まで幅広い分野の光環境を創出。1993年からは、タイ、韓国、中国、台湾など福岡を中心に約4000km圏内のアジア諸国における照明デザインも数多く手掛けている。

塚原道夫 (つかはらみちお)



1951年生まれ。造園建設会社を経て、㈱塚原緑地研究所を設立し代表取締役就任。活動範囲はランドスケープのデザインからランドスケープのマネージメントに及ぶ。公園、野外活動、旅館、温泉、飲食事業など幅広い事業を展開している。ランドスケープの「生みの親」から「育ての親」を目指している。

## 斉藤久芳 (さいとうひさよし)



1955年生れ 千葉市役所で37年間、公園緑地や自然保護行政に携わる。定年退職後、㈱塚原緑地研究所に入社。千葉みなとエリアの統括マネージャーを務める。千葉ポートタワー、ポートパーク等において行政経験や人脈を活かし、イベントの企画・運営、集客プロモーション、広報などを主に担当している。

## 鈴木健太 (すずきけんた)



1982年生れ 千葉ポートタワー館長。飲食業を経験後、㈱塚原緑地研究所に入社。管理運営している公共施設での飲食事業の責任者を務める。レストラン、バーベキュー、ビアガーデン、みなとの屋台等の運営を通して、千葉みなと地区の賑わいづくりに取り組んでいる。

## 佐久間徹 (さくまとおる)



1969年生まれ。2014年、㈱塚原緑地研究所に入社。千葉ポートパーク所長。公園の管理・運営業務に従事。再開発などにより、表情を変えていく街と共に、地域と一体になった、多くの人が気持ちよく安全に利用できる公園づくりを目指し、日々仕事と格闘中。

Registered Landscape Architect

## 登録ランドスケープアーキテクトを目指してみませんか!

(Registered Landscape Architect:略称RLA)

～国土交通省による登録資格として認定された資格です～

## RLA資格者の紹介

今回のCLA賞受賞作品をはじめ、過去の受賞作品の中には、登録ランドスケープアーキテクトの資格を取得した技術者が関わっている作品が数多く見られます。ここでは、2017年・2016年のCLA賞受賞者でRLA資格を取得されている方の中から4名の方に、受賞作品や日頃の実務・取り組みでのこだわりや、これからRLA資格を受験しようとする皆さんに向けたメッセージなどをうかがいました。

私は2009年に大学を卒業し、ランドスケープコンサルタント事務所である株式会社グラックに就職してから約8年間、主に公園や広場等、公共空間の造園設計に従事してきました。その中でランドスケープアーキテクトのやりがいや社会に対してのランドスケープデザインの必要性を改めて実感したのは、昨年優秀賞を頂いた横浜市庁舎緑化再整備プロジェクトでした。

## 横浜市庁舎緑化再整備について

このプロジェクトは、横浜市が進める公共施設の緑化の主要事業として、くすのき広場を含む横浜市庁舎周辺の緑の量と質向上を図るための再整備計画・設計を行うものでした。

横浜市庁舎の足元の緑が整備され40年以上経ち、クスノキの生長に伴う根上がりや施設の老朽化が進行していたため、市庁舎周辺の緑化再整備が課題となっていました。くすのき広場は一般道路を歩行者専用空間として整備した横浜市の都市デザインの最初の取り組みとして実現した広場であり、都市デザインの起点となった歴史的な空間であるため、その文脈を踏まえた整備が必要と考え、業務に取り組みました。

本計画・設計では従前のくすのき広場のデザインコンセプトである市庁舎デザインとの関係を密にするという考えを継承すると共に、市民の価値観が多様化する時代を踏まえ、『緑化再整備を通して街の価値を再構築(リノベーション)する』をミッションとし、緑の力(ポテンシャル)を活かした空間づくりを目指しました。

竣工してから足を運ぶと、従前のくすのき広場に比べて植物を眺める人や写真撮影する人、ベンチに座って寛いでいる人等が多く見られるようになっていました。その使いこなされているシーンをみてランドスケープアーキテクトはとてもやりがいのある職能だと改めて実感しました。

## ランドスケープデザインの魅力

従前のくすのき広場の骨格を活かした空間の再編を考え



くすのき広場全景

株式会社グラック

## 井野貴文



たため、既存のクスノキや舗装、照明灯等は現況のまま残しています。つくり変えたのは主に植物が立体的に見えるように傾斜をつけた植栽空間、レンガタイル発生材を活用したファニチャーの組合せで構成した休憩空間であり、大規模につくり変えていません。ランドスケープのリノベーションは建築等のリノベーションと異なり、少し手を加えるだけで場を魅力的に蘇らせることができることを実感し、これからの時代に必要とされるものだと思います。

このような少し手を加え、蘇る場は全国にたくさんあると思いますし、それを出来るのがランドスケープアーキテクトであり、ランドスケープデザインだと思います。

## RLA資格に期待すること

最近特に建築や土木等の他分野の方がランドスケープに興味を示しており、ランドスケープの資格はどういうものがあるかと聞かれることがよくあります。他分野の方にもRLA資格がもっと認知されることを期待していますし、私もPR活動を頑張りたいと思います。

## おわりに

RLA資格を取得してから約4年が経ちますが、資格試験で学んだ基礎知識や技術は実務でも役立っています。これからさらに都市公園に限らず公共空間の発注要件にRLA資格者が求められるようになると思いますし、資格の有為性がますます向上していくと思います。それに伴って資格試験が難しくなるかもしれませんが、早めに受験されることお勧めします。



植物を立体的に楽しめるようにつくり変えた植栽空間

RLAを取得したのは2007年。この春で3回目の更新を行い、RLA資格者として10年目を迎えました。大学卒業後、公共系の設計を行うコンサルに就職、地元の群馬での個人事務所活動を経て、2011年から現職に就いています。個人事務所時代は、群馬で数少ない（もしかしたら唯一の）RLA資格者であったことで、様々な場面で声掛け頂きましたし、資格を頼りにお問い合わせをいただくこともありました。また、現職に就くにあたって、RLA資格が条件の一つでもあったということは言うまでもありません。このような経歴の人間はあまりいないように思いますが（オススメもしませんが）、公共設計はもとより、個人宅から、大規模再開発まで幅広い物件に携われたことは、今に繋がっていると感じています。

### グランモール公園再整備について

今回CLA賞最優秀賞をいただいたグランモール公園再整備に携わるきっかけとなったのは、横浜市が実施したプロポーザルへの応募でした。同時期に美術の広場に接する街区で商業施設開発の設計に携わっていたこともあり、グランモール公園への思いは強く持っていました。

プロポーザルでは「新しい街づくりを先導する公園」から「成熟した街づくりを牽引する公園」を基本理念に、グランモール公園の再整備をみなとみらい21の「第二のまちびらき」であると位置づけ、「中間領域の創出」「メディア・フレーム(公園全体を繋ぐ環境モニュメント)の設置」「パークマネジメントシステムの整備」という3本柱を提案しました(下記参照)。メディア・フレームについては、グリーンインフラの導入や、公園全体を貫くペープパターンなど、違う形となりましたし、パークマネジメントもこれからと



株式会社三菱地所設計

### 津久井敦士



いう段階ではありますが、「成熟した街づくりを牽引する公園」を体現することは出来たと自負しています。

設計の概要については、作品ページに記載した通りなので省略しますが、グランモール公園の全長にわたって様々な用途の建築敷地に接しているという特徴もあって、隣接する民地との関係(建築の用途、公開空地の形状・使われ方、人の動線)や、ソトカフェみなどみらいを想定した公園の民間活用など、境界線の中だけで完結する公園設計に収まらない検討が求められました。また、グリーンインフラの導入をはじめとして、公共工事の標準図とは大きく異なる仕様を数多く盛り込んでいます。横浜市の英断があったことでありますが、それぞれの要素技術を正確に把握し、公共事業として必要な基準に合致したものとすることも求められました。

### RLA資格に期待すること

「官民連携」「民間活力の導入」といった言葉も聞き慣れてきているところもありますが、今後は「公地」と「民地」の境が、ハードの面からもソフトの面からも、より一層曖昧になるものと考えております。そして、境界線が土地所有者の区分を示すのみとなり、設えやアクティビティを制限するものでなくなることで、ランドスケープデザインの領域はより一層拡大するものと想像しています。

しかしながら、実際のところは、行政側の縦割りは変わらずにあり、公園・道路・河川・民地とそれぞれに対応できる技術が必要です。自分の成長に対する期待でもありますが、すべての領域に対して制限なく活躍できる人材であるということが、RLA資格者、そして、RLA資格に対して期待されていることではないでしょうか。

### はじめに

私は2003年にこの業界に入り、途中会社を変わりながらも10年間公園の計画や設計などの業務に携わってきました。

### 七本木池公園について

今回賞をいただいた愛知県半田市の七本木池公園はちょうどRLAを取得する前後に携わった公園です。

完成後初めて訪れた時に見た光景が、とても印象に残っています。その日は平日にも関わらず、ランニングやウォーキングをしている地元の人々で大変にぎわっており、公園ができることでこんなにも地域の姿が変わるものなんだと驚くと共に、整備前を思い出しながら感動したことを覚えています。単にきれいに整備されただけでなく、人々の生活行動までが変わることを間に当りにしました。

思い返してみると、対象地は、大きな水面とそこに降りたつ冬鳥の群れがあり、周りの木々に埋もれてしまっているサクラの並木が存在するなど、魅力となる要素が元々ある場所でした。

設計では、それらを積極的に見つけ活かすこと、利用しにくくなっている原因をとりのぞくことを心がけました。もともと周辺に住む方々の池への関心や運動への要望が高かったこともあり、こうしたニーズを受け止める計画を立て、設計できたことで印象的な光景を見ることができたのだと思います。

完成時には、RLA資格を取得することができていたので、RLAがイメージする仕事とはこういうことなのかと理解が深まりましたし、デザインの力を実感できた公園となりました。

### ランドスケープを志したきっかけ

ランドスケープの分野には大学で出会いました。幸いに



整備前



整備後

株式会社オオバ

### 松岡史展



も日本国内各地や世界で活躍されている研究室の先輩の姿や、道内のコンサルタントの作品に触れることができ、北海道ならではのスケールの大きさ、空間づくりへの面白さに憧れ、ランドスケープについて詳しく知りたいと思うようになりました。

実際にこの業界に入ってから、幅広い知識の必要性やプランで一つの線を引くことの難しさ等、ランドスケープの奥深さを感じる毎日です。

そんな中RLAを取得できたことで、これまで取り組んできたことに対しても自信を得ることができ、(若干ですが)余裕をもって業務に取り組めるようになったと思います。

### RLA資格に期待すること

これからRLAがもっと発展し、資格の認知度や地位が向上することを期待します。ランドスケープの重要性や面白さがより多くの人に伝わるよう、私自身もより一層の研鑽が必要と感じています。

### おわりに

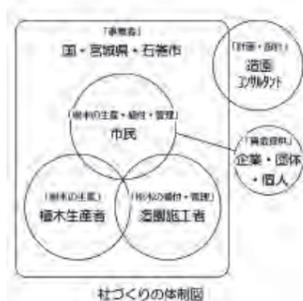
RLAの試験は、日々の業務がそのまま勉強になる試験だと思います。逆に試験の内容が業務に生きることもあるかもしれません。自身の成長を計る力試しと思って受け続けてみてはいかがでしょうか。

近年の、時代の要請に伴うプロジェクトの多様化は、市民や企業など、プロジェクトに関わる主体の多様化と言い換えることができると考えます。ランドスケープアーキテクトには、これまで以上に、多様化する関係主体を繋ぎながら、物事を進める力が求められるのではないのでしょうか。今回ご紹介する「石巻南浜津波復興祈念公園の杜づくり」は、発注者、設計者、植木生産者、造園施工者、市民が一丸となりながら「追悼と鎮魂の杜」を作り上げていくプロジェクトです。石巻南浜津波復興祈念公園（以下、本公園）は、東日本大震災による被害が特に大きかった石巻市南浜地区の約40haの広大な計画地に、国・宮城県・石巻市が連携して計画・整備を進めているもので、私は、本公園の「植栽基本・実施設計」および「市民参加型杜づくり支援」を担当しています。

元々この地域では、「公園に森を作りたい」という想いのもと、震災後からいち早く苗木づくりに取り組まれている市民の方々がいらっしゃいました。そのため、公園の基本理念や基本方針にも「市民協働による杜づくり」を復興の象徴として位置付けています。本公園の杜づくりの特徴は、「周辺地域から採取した種子や穂木から育てた苗木を用いる」ことです。そのような苗木から始める杜づくりは、長い時間と手間が必要であり、それを実現するには、杜づくりを担う市民と、それをバックアップする多様な主体が知恵を出し合える仕組み（体制）づくりが課題でした。

本公園では、「市民協働による杜づくり」を軌道に乗せるため、地元の杜づくり専門家による技術的なサポートが不可欠であると考えました。そこで早い段階から、「日本造園建設業協会宮城県支部」、「日本植木協会東北ブロック」に協力を仰ぎ、市民と専門家が一丸となって杜づくりに取り組める体制を試行しています。

具体的な体制試行の第一歩は、本公園の杜づくりのキックオフとなる「第1回復興の森づくり植樹祭」への参画でした。地元で活動する市民団体や企業団体等で構成される協議会が主催した植樹祭でしたが、植栽計画に基づく苗木調達や技術指導、資材準備など、市民の方々と、それを



市民、生産者、施工者、設計者の団結（植樹祭を終えて）

株式会社愛植物設計事務所

### 渡邊幸太

支援する生産者・施工者・設計者の専門性を活かした積極的な参画もあり、第1回植樹祭は無事に幕を閉じ、「市民協働による杜づくり」は幸先の良いスタートを切ることができました。

本公園の杜づくりに完成はありません。多くの人々によって、時間をかけて杜をつくり上げていくことに意味があり、どの段階をとっても、それぞれの時点で「追悼と鎮魂」の杜なのです。数十年、数百年と継続される杜づくりを、私も微力ながら、（生きているうちは）応援していきたいと思っています。

ランドスケープの仕事に就いて4年、ランドスケープアーキテクトに求められる職能の広さを日々実感しています。計画やデザインを取りまとめる知識や技術（エンジニアリング力）だけでなく、それを関係者の合意を得ながらかたちにしていく能力（プランニング力）、そのどちらが欠けても、発注者の信頼を得、魅力的な「場」の風景をつくることはできないだろうと、今回ご紹介した事例を通じて感じています。

RLAは、ランドスケープを仕事としていく上で必要な、基礎的な知識・技術を問うものです。すなわち、これから受験される皆様にとって、RLAの取得はゴールではなくスタートであり、これから仕事の中で積み上げていく知識・技術・経験の土台となるものです。私も、RLAとして学ばなければならないことは山積しています。RLAの職能の研鑽も杜づくりも、「完成はない」ことを念頭に置きつつ、これからもランドスケープの仕事に取り組みたいと思います。

## 登録ランドスケープアーキテクト [RLA] Registered Landscape Architect

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会（略称CLA）では、現在および将来の人々の安全・環境・文化・福祉に対する責任を自覚し、地球環境時代における美しい都市・地域づくりを担うランドスケープアーキテクト業務を遂行するために必要な一定水準の知識・技術・能力を持つ者を、「登録ランドスケープアーキテクト（略称RLA）」として登録・認定する資格制度を展開しています。

この資格制度は、我が国の社会経済情勢に対応し、国際的技術水準に即して、ランドスケープアーキテクト業務を円滑かつ的確に遂行すること、業務成果の技術水準を高めること、及びランドスケープアーキテクトの社会的地位向上を図ること、を目的としています。

登録ランドスケープアーキテクトは、ランドスケープアーキテクト業務の遂行に関わるわが国唯一の資格であり、2016年2月に国土交通省による登録技術者資格として認定されました。RLAを業務の資格要件に採用する自治体が増えつつあります。

一方、この資格制度をより一般的なものとし、ランドスケープアーキテクトの社会的認知度を向上し、裾野を広げるため、2014年度から「RLA補」を導入いたしました。RLA補はRLAが実施する業務を補助できる知識と能力を持つものを行い、経験の少ない若い技術者や学生を対象として登録・認定するものです。

### 登録ランドスケープアーキテクトの職能のイメージ

- ◎自然環境の保全を目標に緑・水・土などの自然要素を「命ある素材」として効果的に扱うデザイン
- ◎快適さを指向する環境空間やレクリエーションの場のデザイン
- ◎生態学的原理を土地利用計画に応用し、生態系の構造と機能を活かした環境のプランニング、およびこれに続くデザイン
- ◎地域の歴史文化に根ざした空間デザイン
- ◎市民・住民参加によるコミュニティ環境のデザイン

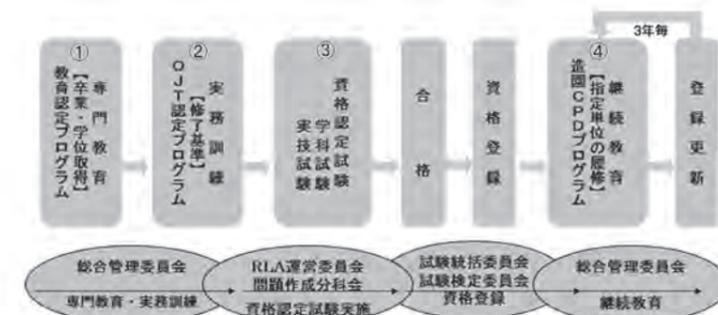
### RLA資格の種類

- ◎ RLA（2002年度から実施）
- ◎ RLA補（2014年度から実施）  
RLAが実施する業務を補助できる知識と能力を持つ者
- ◎ RLAフェロー（2015年度から登録）  
ランドスケープの見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし、その能力と業績から、RLAを代表するにふさわしい者

### RLA資格取得のステップ

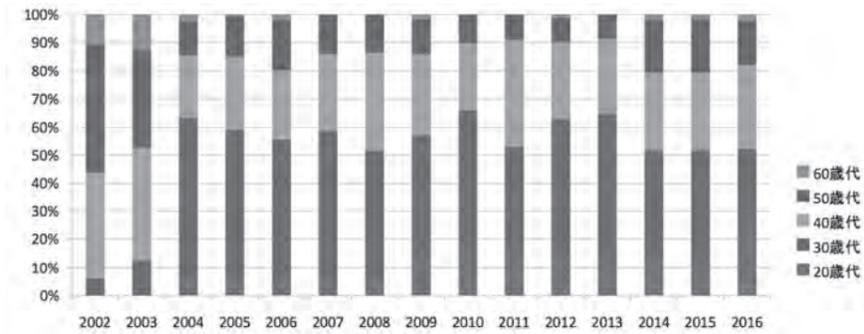
RLA資格の取得は、次の4つの段階より構成されます。

- ① 専門教育：大学等専門教育機関での教育
- ② 実務訓練 [OJT]：就職してからの訓練
- ③ 認定試験：択一試験、実技試験
- ④ 継続教育 [CPD]：造園CPD制度への参加



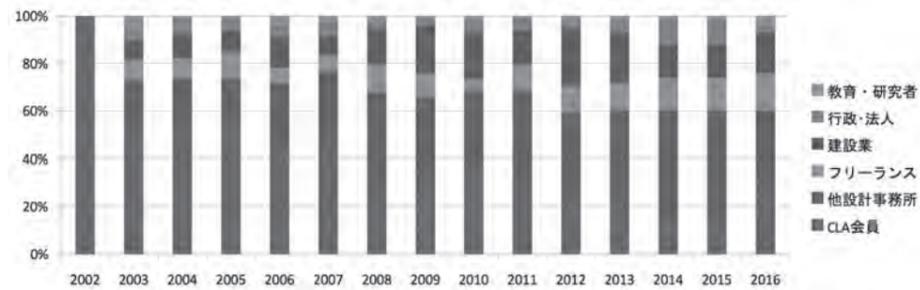
### RLA 受験者数の年齢層別推移

RLA 資格創設から 15 年が経ち、受験者の年齢層にも変化が見られます。現在では 20 代の受験者の割合が増加したほか、20 代～50 代ではほぼ偏りがなく、幅広い年齢層が受験しています。



### RLA 受験者数の職業別別推移

回を追うごとに CLA 会員以外の受験者の占める割合が増えつつあり、RLA 資格が多様な職種に浸透してきています。



### RLA 資格試験の概要

#### [RLA の受験資格]

- ◎大卒者（指定学科）：卒業後 3 年以上の業務経験者
- ◎大卒者（指定学科以外）：卒業後 5 年以上の業務経験者
- ◎この内 1 年以上の主体的立場での実務経験が必要です
- ◎その他詳細は、受験手引き等を参照してください

#### [RLA 補の受験資格]

- ◎受験資格は問いません。ランドスケープに興味を抱き、ランドスケープに関して必要な勉強をすればどなたでも受験することができます
- ◎RLA 補の試験内容は、RLA の試験の内、一次試験（その 1、その 2）に合格すれば、登録できます

#### [RLA の試験日程]

- ◎試験実施日：毎年 1 回、9 月第 4 日曜日
- ◎受験申込：毎年 6 月 1 日～7 月 10 日に受付
- ◎試験会場：札幌・東京・大阪・福岡

#### [RLA の試験内容]

- ◎一次試験（その 1）：択一問題（基本的知識）80 問 / 80 分  
基礎知識（専門実務）、計画原論・設計基礎、自然の体系、歴史・文化等に関する知識を問う問題
- ◎一次試験（その 2）：択一問題（設計知識）80 問 / 80 分  
植栽・土壌、造園工学・造園施設材料、造成・排水、日本の伝統造園手法、等に関する知識を問う問題
- ◎二次試験（その 1）：実技問題（計画実技）2 問 / 110 分  
No.1 土地利用ダイアグラムに関する問題  
No.2 敷地計画に関する問題  
※出題のテーマはホームページにて公表いたします
- ◎二次試験（その 2）：実技問題（設計実技）3 問 / 175 分  
No.3 割付・造成・排水計画に関する問題  
No.4 植栽計画・設計に関する問題  
No.5 詳細図作成に関する問題  
※出題のテーマはホームページにて公表いたします
- ◎上記 4 つの部門は、部門毎の合格が可能で、4 部門全てに合格した方が、RLA として登録することができます

### 支部活動報告



#### ■支部の体制 10 社

本年度の北海道支部の体制は、正会員 4 社、準会員 3 社、支店会員 1 社、賛助会員 2 社です。

#### ■支部総会の開催 5 月 23 日（火）

平成 28 年度の支部活動・収支についての報告  
平成 29 年度の支部活動計画・収支予算についての協議  
技術委員会報告『ふりかえりのランドスケープ 2016』

#### ■「情報セキュリティに関する勉強会」 5 月 24 日（水）

サテライト受信実験として CLA 業務委員会主催の勉強会をサテライト受信しました。まだまだ課題はありますが、受信自体はおおむね成功しました。



参加者：7 名

#### ■「RLA になるための講習会」 6 月 12 日（月）

今年初めて RLA 資格試験の札幌会場が設定されたため、受験者の増加と合格率の向上のための受験講習会を開催しました。

講師：狩谷達之 CLA 事務局長

会場：かでの・27

参加者 14 名



#### ■「2017 年 北のランドスケープ研究会」

##### ふりかえりのランドスケープ 2017

##### ～みどりづくりをふりかえる～ 7 月 20 日（木）

造園学会北海道支部との共催で、これまで行われてきた様々な緑化方策を施工前の状況と現在の姿を通して、これまでの「みどりづくり」とこれからの「みどりづくり」を開催しました。



協会員 4 社から 5 題の話題提供がされました。業界の生の話が聞けるとして、学会や学生からも好評だったので来年も継続して続けることになりました。

参加者：39 名

#### ■「ランドスケープ経営研究会」

##### 設立に関する勉強会 8 月 22 日（火）

7 月 28 日に行われた総務委員会+支部長会議において提案された「ランドスケープ経営研究会」について、萩野技術委員長からの来札中を利用して、当支部幹事の皆さんとの勉強会を開催しました。

会場：北海道造園設計（株）会議室

参加会員：北海道造園設計（株）、（株）ドーコン、（株）環境緑地研究所、（株）シン技術コンサル、（株）シビテック、パシフィックコンサルタンツ（株）北海道支社

講師：萩野一彦 CLA 技術委員長

#### ■「自然公園、ジオパークをフィールドとした取り組みや活動を行っている方々との意見交換会（勉強会）」 8 月 27 日（日）

ランドスケープコンサルタント業務として、関わりを持つ機会が少ないが日頃より高い関心を持っているジオパークについて、取り組みや活動されている方々との意見交換会（勉強会）を行いました。

場所：洞爺湖有珠

ジオパーク

講師：三松靖志氏

洞爺湖有珠

火山マイスター

参加者：24 名



#### ■ RLA 資格試験 札幌会場の運営 9 月 24 日（日）

本部から狩谷事務局長、支部会員 3 名と公募協力者 4 名で試験会場の運営を行いました。

#### ■日本造園学会北海道支部大会を共催 10 月 7 日（土）

北海道大学農学部において開催される日本造園学会北海道支部大会に共催として参加します。

場所：北海道大学農学部（札幌市北区北 9 条西 9 丁目）

日本造園学会賞（事業・マネジメント部門）受賞者講演  
「札幌都心部整備事業に関わる、造園からのデザイン監修」  
笠原三郎氏（緑花計画）

講演会：「日本一変わっている花園・陽殖園」

高橋武市氏（陽殖園）

▽その他の共催・協力事業

#### ■ NPO 法人ガーデンアイランド北海道への協力

・GIH スキルアップセミナーの共催

第 1 回基礎から学ぶ庭木の剪定講習 7 月 28 日（金）

第 2 回秋に向けてのハンギングバスケット講習 8 月 19 日（土）

#### ■北海道造園懇話会への協力

・現場見学会 滝上町「陽樹園」 9 月 17 日（日）

■ 東北支部通常総会開催

平成 29 年 4 月 26 日（水）ホテル自萩において、平成 29 年度東北支部通常総会を開催しました。



■ 日本造園学会東北支部運営委員会

平成 29 年 6 月 12 日（月）仙台市（仙台駅前貸会議室）において開催された同委員会に支部長が参加しました。

平成 29 年 10 月 14 日、15 日、秋田市で開催される日本造園学会東北支部大会への後援及び協力の要請を受け承めています。

東北支部

■ 「標準業務・報酬積算ガイドライン」の  
発送

各自自治体及び関連団体にガイドラインを発送した。今回は東北支部活動の啓蒙を図るために名簿の他東北支部の概要を同封しました。



■ 関連団体との交流

- ・ 日本造園学会東北支部大会後援及び交流会  
平成 29 年 10 月 14 日（土）13：00～  
国際教養大学（別添資料）
- ・ せんだい東部復興市民会議協賛  
平成 29 年 11 月 2 日  
仙台市農業園芸センター

関東支部

関東支部は、一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会本部の活動と連携しながら、独自に以下のような地域活動を行っています。

1. 関東所掌地域への CLA の PR 及び情報収集及び会員への  
発信

報酬積算ガイドライン及び支部会員名簿の配布及び情報収集  
配布期間：平成 29 年 6 月 1 日から 8 月 30 日  
配布先：東京都・国土交通省関東地方整備局等 約 220 部署  
郵送 約 280 部署

東京都が積算基準の変更を今年度検討中の情報があり、詳細な情報を収集。

現在までも周辺自治体では RLA が資格として認められていましたが、本年度より東京都の一部局でも RLA が資格要件として認められたことが確認できました。

2. 「日比谷公園ガーデニングショー 2017」への協力

日比谷公園ガーデニングショー実行委員会は、14 年にわたる開催について高い評価を受け、平成 28 年度日本造園学会賞（事業・マネジメント部門）を受賞しました。

協力内容

- ・ 実行委員会等への委員の派遣
- ・ 企画運営部会への委員の派遣
- ・ ガーデンコンテストへの審査員の派遣
- ・ 協賛金援助



2017 開催期間 平成 29 年 10 月 21 日（土）～平成 29 年 10 月 29 日（日）

3. 支部情報誌「みどりの手帖」の発行

「みどりの手帖 vol.21」は、～公園の活用 日比谷公園大解剖～を特集し、平成 29 年 10 月に発行しました。

「みどりの手帖 vol.22」は、～RLA のしごと：若手 RLA のランドスケープの仕事～を特集し、平成 30 年 2 月に発行予定で準備を進めています。

4. 全国都市緑化フェア等の見学会及び特別セミナーの開催等

●平成 29 年 6 月 2 日（金）に「全国都市緑化よこはまフェア見学会」を開催しました。



よこはまフェアは、港の見える丘公園から山下公園を經由してみなとみらい地区までさまざまな花と緑のしつらえで展開する「みなとガーデン」と、市の北西部のゾーラシアに隣接して新たに建設された「里山ガーデン」の 2 会場を主会場として開催されました。

今回の見学会は「みなとガーデン」を丸 1 日かけて見ました。アメリカ山に集合し、横浜市から「みなとガーデン」地区の説明を受けて、午後から山下公園、日本大通り、象の鼻パークと回り最後に MM21 のグランモール公園までの非常に長い行程でした。花を中心とした美しい展示やさまざまなイベントがあり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

参加者：17 名

●平成 29 年 10 月 6 日（金）に「全国都市緑化はちおうじフェア見学会」を開催しました。

はちおうじフェアは、富士森公園をメイン会場として市内の西放射線ユーロード等道路等をサブ会場として開催されました。富士森公園は運動公園で、展示会場は陸上競技場や野球場などを会場として工夫を凝らした展示が行われていました。当日は小雨の降る天気でしたが、横浜とはまた違った緑化フェアを楽しみました。

参加者：16 名

●10 月 25 日（水）に日比谷公園ガーデニングショーと連携した特別セミナー：「植物学者としての南方熊楠『生誕 150 年を記念して』」を開催します。

南方熊楠は、博物学、生物学、民俗学と幅の広い知見を備えた学者で、生態学を初めて日本に導入した方です。今回は独立行政法人国立科学博物館名誉研究員の萩原博光先生に講師となっただいて、南方熊楠の生涯、研究、業績について講演をいただきます。

5. 自治体の技術研修会の講師派遣

関東支部と本部とで行っている自治体研修会への講師派遣について、本年度は 29 年 11 月にさいたま市、さらに、年度内には千葉市にて行う予定で準備を進めています。この研修会は、ランドスケープの新しい動向や基礎的な考え方、設計の実務などを自治体職員の方々に学んでいただく予定となっています。

中部支部

■ 中部支部活動状況報告 支部長 尾関 利勝

1988年、名古屋開催の「第六回都市緑化フェア」と併せて設立された中部支部は今年30年。その後、1989年、名古屋で「世界デザイン博覧会」開催、2005年に日本国際博覧会「愛・地球博」が長久手愛知県青少年公園で開催、2010年には名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議：COP10」開催など、環境と緑に関する国際行事が連続的にいくつか開催されました。この間、1995年阪神淡路大震災、2011年東日本大震災、2016年熊本地震を受け、中部では予想される東海～南海地震に向けた安全・安心な地域保全が課題となっています。

一方、2004年に景観緑三法制定、2008年に歴史まちづくり法、2017年に公園緑三法改正が行われ、緑と公園の整備、維持に関わる法制度が充実され、その活用が期待されています。30年前、(財)日本造園コンサルタント協会加盟の中部の20数社が結集、中部支部を設立、地域の緑化推進と緑の景観保全の役割を担ってきたが、その後、会員数が減少～停滞する中、改めて、美しく強靱な国土、緑豊かで安心安全な生活環境の保全を目指して一層の努力を深めていくことが、私たちに求められる課題と自覚し、支部の活動に取り組んでいます。

今年の主な支部の取組 3題報告

■ CLA 中部支部設立 30周年記念事業 ランドスケープ技術講習会 (CLA ビジョンセミナー共催プログラム)

中部支部30周年記念事業の一環として、ランドスケープ技術講習会を協会本部の事業委員会の支援を頂いて実施するもので、ランドスケープを取り巻く最新の潮流や今後の動向を学ぶ絶好の研鑽の機会となることを期待しています。インターネット回線でサテライト会場と結んで、意見交換する予定で、全国各支部との意見交換できることが楽しみです。

日時 平成29年11月10日(金) 15:00～

場所 名古屋第一ビル会議室(4階) 中区伏見

講習会 (1) 中部支部会員の取組紹介

- ① 都市緑化あいちフェア
- ② なごや西の森づくりと催事協力

(2) 講演「名古屋発 デザイン職能とマネジメント職能の連携」

講師：竹田和真<sup>\*1</sup>with 小林新<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 大阪府公園協会、<sup>\*2</sup> CLA 事業委員長

(3) 来賓者コメント

国土交通省中部地方整備局公園調整官笠間三生氏

■ 「とだがわの森感謝祭」への出展協力

当支部では、名古屋市内の戸田川緑地で毎年開催されている

「とだがわの森感謝祭」に協力し、例年、自然体験プログラム「森めぐりラリー」を実施。今年も10月21日(土)。当日は、会場内に特設ブースを設け、ここから周囲の森を一周し、自然に触れながらゲーム体験ができる「森めぐりラリー」を実施。また、ブースでは落ち葉やドングリなど、秋の自然の素材を飾りつける工作も楽しむ。運営スタッフは、当協会の会員のほか、大学生ボランティアも含めて毎年15名前後が集る予定。(写真は昨年の様子)



運営の様子



運営スタッフ

■ CLA 中部支部設立 30周年記念事業 「金沢視察・会員交流会」

今年2つ目の30周年記念事業として、10月27日(金)、名古屋在住会員と北陸在住会員が交流する視察会を始めて企画。正会員6社、賛助会員9社が参加。兼六園、21世紀美術館などを視察予定。昼食を兼ねて、会員交流。

関西支部

■ 関西支部総会及び講演会の開催

平成29年4月27日(水) 大阪府立労働センターにおいて通常支部総会が開催され、平成28年度事業活動と収支決算の報告、平成29年度の事業計画案および収支予算案の説明があり、満場一致で承認されました。

支部総会終了後、国土交通省近畿地方整備局 国営明石海峡公園事務所長の辻本 慎太郎氏をお迎えし、「国営明石海峡公園事業概要と最近の公園緑地行政取り巻く動き」と題して記念講演を頂きました。

辻本所長からは、国営明石海峡公園の淡路地区と昨年開園された神戸地区(あいな里山公園)についてこれまでの整備の流れと神戸地区で展開されている伝統的自然観を意識した体験プログラムなどのご紹介、さらには都市緑地法等の一部を改正する法律案についても解説頂きました。

■ 第7回みどりのまちづくり賞の実施

今年度も「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現を目指して、「まちが美しくなるみどりづくり」「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方に送る賞の実施を大阪府と(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との共催でおこなっています。

7月から募集を開始し、今年度はランドスケープデザイン部門に15作品、ランドスケープマネジメント部門に14活動の応募があり、審査を進めています。11月には表彰式・講評会の開催を予定しています。



2016 デザイン部門 大阪府知事賞 新ダイビル 堂島の社



2016 マネジメント部門 大阪府知事賞 泉大津緑化ボランティア協議会

■ 街角サロン：庭園見学会の開催

6月23日にJLAUとの共催で、庭園文化セミナー「京都御所・仙洞御所・拾翠亭を訪ねる」を開催しました。講師の宮内庁林園課長の小林氏と吉田昌弘氏(空間創研)に解説を頂きながら、一般参観では見られない場所も含めて宮廷庭園の魅力をたっぷり味わうことができました。今年度は、あと1回冬季の開催を予定しています。



仙洞御所にて



京都御所にて

■ 技術講習会の開催

昨年度より支部会員の中で経験豊富な方々から様々な視点から講演をいただき、業界全体のノウハウとして広く若世代へ技術・技能の継承をはかることを目的として、技術講習会を開催しています。今年度も3回の開催を予定しており、6月と8月に2回実施しました。

6月[第4回]には、(株)地球号の中見哲氏を講師に招き、これまで手掛けられた多くの作品を時代の流れに沿って紹介いただきました。8月[第5回]には、(株)辻本智子環境デザイン研究所の辻本智子氏を講師に招き、花の文化の成り立ちから、館長を務められている淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」における花の展示についてご紹介いただきました。

また、6月中見氏のセミナーは本部活動のビジョンセミナーの共催としてインターネットを活用したシステムを使って、他の支部でも受講していただきました。



中見氏の講習会の様子

■ おおさか都市緑化フェア 2017 in 万博の共催

昨年に引き続き9月30日～10月1日に日本万国博覧会記念公園にて開催されるフェアへ共催者および出展者として参画します。今年、大阪府、関西6公立造園・環境系大学との共催展示を行いランドスケープの職能をPRしました。



展示ブースの様子

■ ランドスケープカンサイの発行

継続的に発行している広報紙「ランドスケープカンサイ」の115号から117号を発行する予定です。

ここに記載した活動のほか、関西で開催されるランドスケープに関する情報を掲載し、ホームページと共に支部活動を積極的にPRしています。



115号表紙

九州支部

■「第10回九州ランドスケープセミナー」を開催

平成29年2月15日に(一社)ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)との共催で「第10回九州ランドスケープセミナー」を開催しました。今回は、『“九大跡地”から“地域のオアシス”へ～九大箱崎キャンパス跡地に描く今後のランドスケープ～』をテーマに、「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画の概要」と「跡地におけるハーバード大学のスタディの概要」について、上瀬今佐美氏(福岡市大学移転対策部長)、坂井猛氏(九州大学本部キャンパス計画室教授・副室長)から話題提供をいただいた後、参加者と意見交換を行いました。協会の他、JLAU会員、行政、造園関連業界及び学生など、100名の参加がありました。



■福岡市都市緑化イベント「グリップキャンペーン」への出展・後援

福岡市が都市緑化月間に合わせて、平成28年10月15・16日の2日間、舞鶴公園(福岡城址)で開催した「グリップキャンペーン」への出展と後援を行いました。

九州支部では、毎年公園を訪れた方に人気の“ゾーブ”を出展しています。今回は2日目が雨天だったため、1日だけの出展になりましたが、家族連れから子ども達まで250人を超える利用がありました。また、テント内では協会の取組みや各社の概要などを紹介したパネルを展示しました。



■福博花しるべ「ガーデニングショー」への出展・後援

福岡市が主催する天神と博多を花で結ぶイベント「福博花しるべ・ガーデニングショー」を後援するとともに花壇出展を行いました。ガーデニングショーは、平成28年4月1日(金)から4月9日(日)までの9日間、天神の中心部に位置する警固公園で開催されました。

企画・デザイン・設営にあたっては、九州支部メンバーの他、

JLAU 会員や西日本短期大学緑地環境学科の学生の協力をいただきました。



■「福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会」(通称:FD)

九州支部では、毎月第2金曜日の夜に九州支部の社員、JLAU、ランドスケープを学ぶ学生、行政の若手職員などランドスケープに係る人材が自由に参加できる学習・交流会を開催しています。毎回のテーマは、ランドスケープに関係する多様なテーマを設定し、ゲストによる話題提供の後、意見交換を行っています。この会は平成25年にスタートし、今年の10月に53回をむかえました。



■「ふくおか、みどりの研修会」の共催

西日本短期大学緑地環境学科が主催する「ふくおか、みどりの研修会」を共催しました。

平成29年9月10日(日)に二丈キャンパスで開催され、西日本短期大学や南九州大学の学生や福岡県内の造園の関連企業、行政など140名を超える参加のもと、「私の地元の緑・環境・まちづくり」をテーマに研修を行いました。九州支部では、研修会の企画・進捗を支援しました。



正会員 71

◎:会長 ○:副会長 ▽:専務理事 ◇:理事 □:監事

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
株アーバンデザインコンサルタント	03-3553-1016	望月英彦	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3553-1018
株アーバンデザインコンサルタント	092-482-8001	◇ 大杉哲哉	812-0011	福岡市博多区駅前2-12-26 福岡Dビル	092-482-8021
株愛植物設計事務所	03-3291-3380	趙 賢一	101-0064	千代田区猿樂町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381
株あい造園設計事務所	03-3325-6660	細谷恒夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS第一ビル	03-3325-6262
朝日航洋株	03-3522-7161	八木鋼治	136-0082	江東区新木場4-7-41	03-3522-7162
株荒木造園設計	0727-61-8874	荒木美真	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234
株荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	長谷山弘志	730-0833	広島市中区江波本町4-22	082-294-3575
株エイト日本技術開発	03-5385-5111	田中紀昭	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520
株エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	◇ 津田主税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617
株エスティ環境設計研究所	092-271-3606	澁江章子	812-0028	福岡市博多区須崎町12-8	092-271-3662
株LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本忠順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715
株オオバ	03-3460-0127	菊谷 隆	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160
株環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	田中行雄	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696
環境設計株	06-6261-2144	井上 健	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146
株環境設計研究室	03-5401-3900	納谷和親	105-0001	港区虎ノ門5-3-2 神谷町アネックス	03-5401-3905
株環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤文昭	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928
株環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下慶浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576
株環境研究所	06-6306-2481	宇都宮光史	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614
株環境ヴィートム	097-534-1436	稲垣英樹	870-0046	大分市荷揚町10-13	097-537-8578
キタイ設計株	0748-46-4902	梶 雅弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦1030	0748-46-5620
株空間創研	075-353-6337	○ 宇戸陸雄	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ棚下る鎌屋町23番地 シイ堀川ビル	075-353-6338
株グラク	03-3249-3010	◎ 枝吉茂種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685
株KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301
株景観プランニング	028-650-3030	後藤昌巳	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034
株建設環境研究所	03-3988-1818	浦川雅太	170-0013	豊島区東池袋2-23-2	03-3988-2018
株公園マネジメント研究所	06-6947-6522	小野 隆	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6947-6523
サンコーコンサルタント株	03-3683-7152	串田宗史	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116
株式会社シン技術コンサル	011-859-2604	佐々木公明	003-0021	札幌市白石区栄通2-8-30	011-859-2614
株新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260
株スペースビジョン研究所	06-6942-6569	安場浩一郎	540-6591	大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル	06-6942-6897
株セット設計事務所	042-324-0724	和田 淳	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
株ZEN 環境設計	092-643-5500	中村久二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520
株爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミール	03-3829-4692
株総合計画機構	06-6942-1877	濱口和雄	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6942-2447
株総合設計研究所	03-3263-5954	◇ 石井ちはる	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996
第一復建株	095-557-1300	畠山美久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110
大日本コンサルタント株	048-988-8114	酒井康弘	343-0851	越谷市七左町5-1	048-988-8184
高野ランドスケーププランニング株	0155-42-3181	◇ 金清典広	080-0344	河東郡首更町字万年西1線37番地 旧竹林小学校	0155-42-3863
玉野総合コンサルタント株	052-979-9111	吉田勇次	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112
株地域計画建築研究所	06-6205-3600	畑中直樹	541-0042	大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル	06-6205-3601
株地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
中央コンサルタンツ株	052-551-2541	藤本博史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540
株塚原緑地研究所	043-279-8005	□ 塚原道夫	261-0011	千葉県美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
株東京ランドスケープ研究所	03-6859-1088	◇ 小林 新	151-0071	渋谷区本町1-4-3 エバーグレイス本町	03-6859-1087
株ドーコン	011-801-1535	大塚英典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536
株都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	大矢京子	540-0037	大阪市中央区内平野町1-3-7 ヘルヴォア内平野	06-6946-9747
株都市計画研究所	03-3262-6341	○ 石川 純	103-0014	中央区日本橋蛸殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
株都市ランドスケープ	03-5269-8982	▽ 内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-6685-8712
株中根庭園研究所	075-465-2373	中根史郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374
株虹設計事務所	03-3419-7259	光益尚登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246
株ニュージェック	06-6374-4032	堀内康介	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
パシフィックコンサルタンツ株	03-6777-4433	西上律治	101-8462	千代田区神田錦町3-22	03-3296-0530
株フジランドスケープ	03-5719-2919	新井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
株復建技術コンサルタント	022-262-1234	仲村明信	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計株	082-506-1853	来山尚義	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
株プランニングネットワーク	03-3810-9381	◇ 萩野一彦	114-0012	北区田端新町3-14-6	03-3810-9384
株ブレック研究所	03-5226-1101	杉尾大地	102-0083	千代田区麹町3-7-6 麹町PRECビル	03-5226-1112
株文化環境設計研究所	03-6321-8062	落合直文	165-0026	中野区新井1-12-6 B102	03-6321-8062
株ヘッズ	06-6373-9369	中西広樹	530-0022	大阪市北区浪花町12-24	06-6373-9370
北海道造園設計株	011-758-2261	◇ 及川 渉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
株ポリテック・エイティディ	03-6222-8912	吉田 博	104-0041	中央区新富1-18-8 RBM築地スクエア	03-5541-3510
株三菱地所設計	03-3287-5750	□ 植田直樹	100-0005	千代田区丸の内2-5-1 丸の内二丁目ビル	03-3287-3230
株緑設計	0188-62-4263	◇ 板垣清美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	0188-62-4273
株緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
株森緑地設計事務所	03-5484-6070	藤内誠一	108-0014	港区芝5-26-30 専売ビル	03-5484-1550
株URリンケージ	03-6214-5700	石原 晋	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-6214-5665
株ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇ 金子隆行	136-0071	江東区亀戸6-58-12	03-5626-4740
株LAT環境クリエイト	082-273-2605	青木成夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
株ランス計画研究所	045-322-0581	川島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-36	045-322-0719
株リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新井英光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
株緑景	06-6763-7167	瀬川勝之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599

準会員 8

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
南エコシビルデザイン	03-5362-3701	上村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK信濃町ビル	03-5362-3702
株エコル	03-5791-2901	矢島唯弘	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪倍成ビル	03-5791-2902
株環境緑地研究所	011-221-4101	村上恒久	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
株現代ランドスケープ	06-6203-1270	西辻俊明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
株シビテック	011-816-3001	三浦 亨	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
デザイン設計株	011-222-2325	関 利洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
株辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本智子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
株都市・景観設計	06-6228-3388	奥村信一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387

賛助会員 41

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
アゴラ造園株	03-3997-2108	荻野淳司	179-0075	練馬区高松 6-2-18	03-3997-2252
株石勝エクステリア	03-3709-5591	大澤 実	158-0094	世田谷区玉川 2-2-1	03-3709-5857
石黒体育施設株	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡 2-27-18	052-763-8110
株ウォーターデザイン	03-3431-8070	山本 誠	105-0004	港区新橋 6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業株	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市千種区好本町 3-67	052-351-1326
H.O.C株	0956-48-8101	鏡流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町 221-2	0956-48-8111
株岡部	0764-41-4651	竹中祐利	930-0026	富山市八人町 6-2	0764-31-6340
快工房株	048-291-7721	時岡邦男	333-0816	川口市差間 2-14-5	048-291-7725
小岩金網株	03-5828-8828	一戸典夫	111-0035	台東区西浅草 3-20-14 JNTビル	03-5828-7693
株コトブキ	03-5280-5400	中野 竜	105-0013	港区浜松町 1-14-5 D.I.センター	03-5280-5768
株コンパスサービス	03-5920-7031	鍵谷竹志	174-0064	東京都板橋区中台 2-15-8-104	03-5920-7032
株ガイエンス	03-3284-0501	杉本吉正	101-0044	千代田区鍛冶町 1-9-4 KYYビル	03-3284-0504
株サカエ	0422-47-5981	栗田耕司	181-0004	三鷹市新川 4-7-19	0422-49-2122
株サトミ産業	0258-87-5500	佐藤 勉	940-0871	長岡市北陽 2-14-23	0258-87-5501
株三英 景観事業部	04-7153-3141	鈴木正博	270-0114	流山市東初石 6-128-1 新 C69 街区 7	04-7153-3146
信建工業株	054-276-2151	阿部和茂	421-1212	静岡市葵区千代1-18-29	054-276-2154
スイコー株	06-6412-5855	小林 弘	660-0857	尼崎市西向島町86番地	06-6414-2284
西武造園株	03-5926-5418	高橋尚史	171-0051	豊島区長崎5-1-34 東長崎西武ビル	03-5926-5353
株第一造園	03-3726-4381	流郷幹男	145-0062	大田区北千束2-18-7	03-3727-6744
大光電機株	03-5600-7796	雪江未一	130-0026	墨田区両国4-31-17	03-5600-7797
太陽工業株 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	鈴木久文	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
大和リース株	06-6942-8011	野田夏夫	540-0011	大阪市中央区農人橋2-1-36	06-6942-8051
タカオ株	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
株中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田博	488-0022	尾張市市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業株	03-5703-1441	小俣智裕	144-0052	大田区蒲田 4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業株	03-3405-1813	田中秀明	106-0032	港区六本木 7-3-7	03-3405-4210
東邦レオ株	06-6767-1110	木田幸男	540-0005	大阪市中央区上町 1-1-28	06-6767-1263
株ドゥサイエンス	03-5561-9751	香取良一	106-0032	港区六本木 4-1-16 六本木ハイツ 511号	03-5561-9726
トーヨーマテラン株	0568-88-7080	池上英雄	480-0303	春日井市明知町 1512	0568-88-3370
中村シラトリ株	0543-35-6271	石田勝若	424-0911	静岡市清水区宮加三 660 番地	0543-35-6273
株中村製作所	047-330-1111	朝倉辰夫	271-0093	松戸市小山 510	047-330-1119
日都産業株	03-3333-0210	結城健治	167-0053	杉並区西荻南 1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設株	03-5337-2616	奥 裕之	164-0003	中野区東中野 3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設株	03-3422-5331	中田慎一	154-0004	世田谷区太子堂 1-4-21	03-3412-8415
花豊造園株	075-341-2246	山田拓広	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町 518 番地	075-361-0961
日日石材株	03-5637-9211	加藤文磨	131-0033	墨田区向島 3-39-14	03-5637-9213
株日比谷アメニス	03-3453-2402	奥本 寛	108-0073	港区三田 4-7-27	03-3453-2417
株富士植木	03-3265-6731	成家 岳	102-0074	千代田区九段南 4-1-9	03-3265-3031
株丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸 7-5-1	03-3683-7553
株モクラボ	0790-66-3210	関根純一	671-2411	姫路市安富町三森 421-3	0790-66-3810
株ユニソン西日本	06-6228-7820	松岡孝太郎	541-0046	大阪市中央区平野町 3-6-1	06-6228-7860

# ランドスケープ経営研究会

Landscape and Business Development Association, Japan (略称：LBA)

## 新たな時代の緑とオープンスペースのビジネスモデルを構築します

私たちは、緑とオープンスペースの経営において、ランドスケープからの発案が、人々の笑顔にあふれ元気で美しいまちづくりに貢献するものでありたいと考えます。そして私たちは、緑とオープンスペースの経営と事業のあり方、すなわちランドスケープ経営に取り組むことにより、緑とオープンスペースがまちづくりのハブになり、コミュニティを持続的に支えていく大きな力になると確信し、ここに「ランドスケープ経営研究会」を設立します。



## 公園が変わる！ 市民緑地が変わる！ 都市農地が変わる！ まちが変わる！！

公園でビジネスをお考えの企業・団体の皆さま、是非入会をご検討ください

- カフェなどの飲食業 ●コンビニ、園芸店などの物販業 ●アウトドア事業・宿泊業など ●スポーツ・健康ソフト業
- デベロッパー・ハウスメーカー ●総合建設業・専門建設業 ●建築、インテリア、都市計画事務所
- シンクタンク、商業コンサル、広告代理店 ●ファイナンス、法律、会計事務所等
- イベント等プログラム提供者 (NPO含む) ●保育所・社会福祉法人、農業ベンチャー企業など
- ランドスケープコンサルタント ●造園施工業 ●公園施設メーカー ●運動施設メーカー
- 個人会員 (学識者・個人事業主など) ●関係団体・協力団体 ●その他 ※会員の構成 (想定業種)



本研究会は、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会が設置する研究会です

### 研究会の目的

《ミッション》

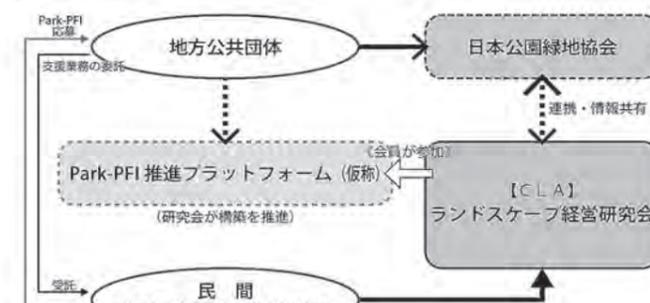
## 新たな時代の緑とオープンスペースのビジネスモデルを構築する

1. 民間の資金とアイデアにより公園を柔軟に使いこなすためのランドスケープ経営モデル
2. 身近な公園や緑地がハブとなったまち全体のコミュニティ型ランドスケープ経営モデル
3. 設計、施工、管理運営が一体的かつ継続的に仕事をするランドスケープ経営モデル

### 研究会の主な活動

- 民間からの事業課題やアイデアの研究
- 研究・提言のとりまとめ及び発信
- シンポジウム、セミナー等の開催
- ホームページの作成・運営
- 会員向けメールマガジン発行
- 意見交換会の開催 (会員相互)
- Park-PFI推進プラットフォーム (仮称) 構築の推進

### 組織連携のイメージ



▶ Park-PFI推進プラットフォーム (仮称) は、Park-PFIの情報・技術交流を行うことを目的とした、公民連携プラットフォームを想定。  
▶ 地方公共団体のサウンディング・公募の無料相談、コンサルティング (受託) も検討しています。

### 入会のメリット

- ▶ ランドスケープ経営の最新営業情報・技術情報の取得による参入機会向上
- ▶ 地方公共団体からランドスケープ経営事業トップランナーとして認知
- ▶ 会員相互の事業コンソーシアム形成
- ▶ 民間からの事業アイデアや事業課題の研究・提言により、公募要件等の適正化推進
- ▶ 講習会・交流会等を通じ、地方公共団体と民間事業者の意見交換の場に参加
- ▶ ポータルサイト等 (構築予定) の利用
- ▶ 早期入会により、さらに上記各メリットを先行的に享受

### 入会金及び会費

	入会金	年会費
① CLA会員 (種別を問わず)	10,000 円	30,000 円/一口 (初年度 20,000 円) ※一口 2 名の会員登録
② CLA非会員	20,000 円	60,000 円/一口 (初年度 40,000 円) ※一口 2 名の会員登録
③ 個人会員	10,000 円	10,000 円

※初年度：2017 年度 ※消費税別途

### 会員募集

▶ 本研究会では会員を募集しております。詳しくはホームページをご覧ください。 >>> <http://www.lba-j.org>  
▶ その他、お問い合わせは下記【研究会事務局】へ電話またはメールにてご連絡ください。

### ランドスケープ経営研究会事務局

東京都北区田端新町 3-14-6 ノザキGビル (〒114-0012)  
tel : 03-6807-8636 fax : 03-3810-9384 e-mail : info@lba-j.org

### 編集後記

CLA journal をご覧いただき、ありがとうございます。今号は CLA 賞受賞作品の紹介にあわせまして、今年と昨年の受賞技術者の中から、登録ランドスケープアーキテクト (RLA) の資格を取得されている方々にスポットをあてた企画を掲載しています。

このたびの都市緑地法等の改正に伴い、公共的空間のストックを柔軟に活用するための創意工夫と経営的な視点が求められています。今回の受賞作品及び応募作品には、都市公園などの再整備や運営管理の取組みが数多く見られました。緑とオープンスペースの魅力を輝かせるために、CLA のメンバー及び RLA 資格者が職能を発揮して活躍してくれることと思います。[C.1]

## CLA journal

no.178

発行日◎ 2017 年 10 月 26 日  
発行人◎ 枝吉茂種  
編集◎ (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会 広報委員会  
発行所◎ (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル  
TEL 03-3362-8266 FAX 03-3662-8268  
<http://www.cla.jp>